

たぐえてゆかん

—学習の手引き—



令和8年（2026年）度

長野県伊那北高等学校

2学年

伊那北高校グランドデザイン

I	教育課程と学習について	1
II	伊那北高校進路ストーリー	6
III	真剣に進路について考えよう	8
IV	入試システム解説	10
V	教科・科目別学習法アドバイス	15



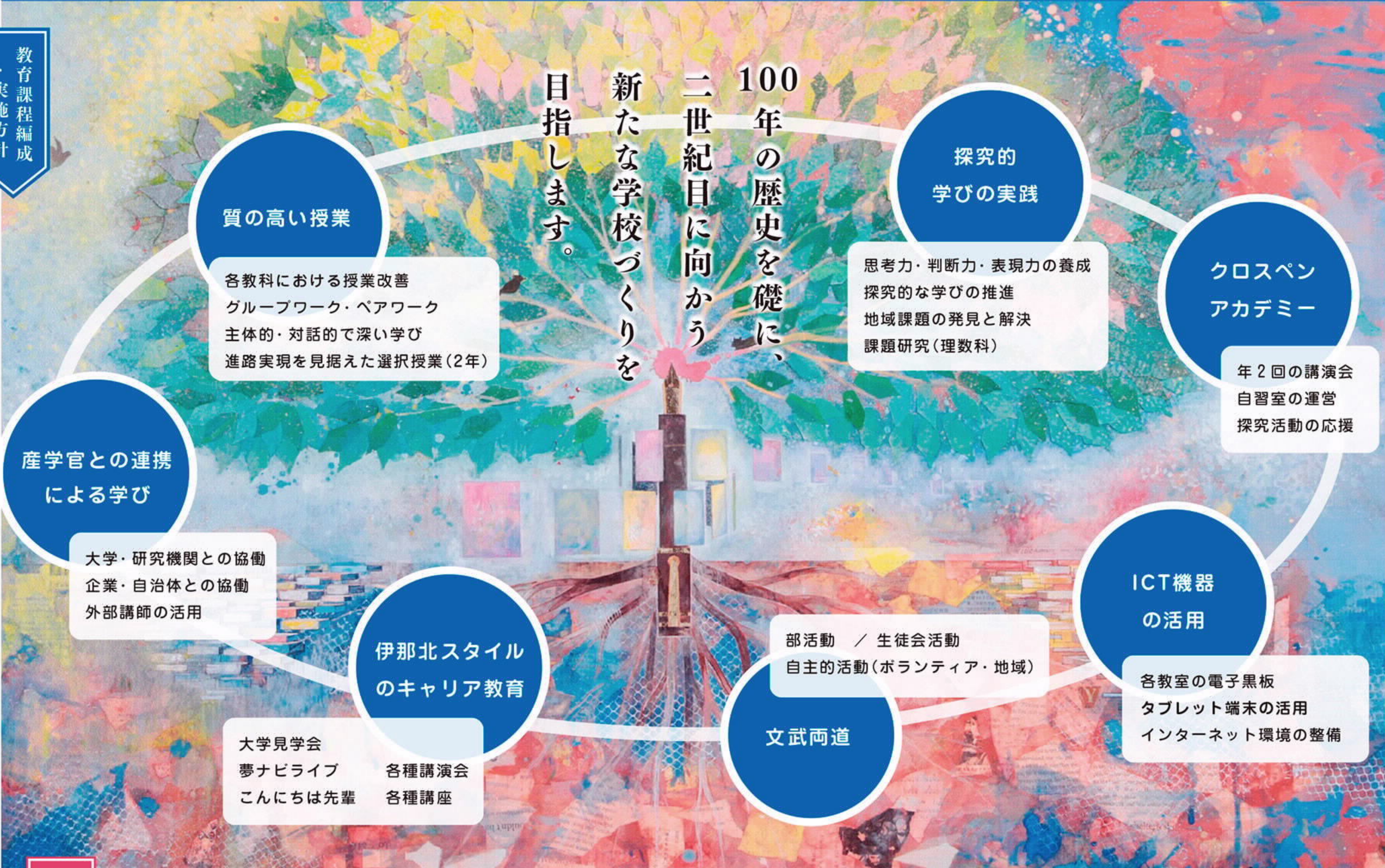
「たぐえてゆかむ」 長野県伊那北高等学校のグランドデザイン

学校教育目標

- ① 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。
- ② 躍如として学業にいそむ。
- ③ 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。
- ④ 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。

充実した 学習活動

教育課程編成
・実施方針



進路実現のためのカリキュラム

- ★ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、PDCAサイクルを活用した授業改善。
- ★ ICTの効果的な活用と主体性、協働性などの学ぶ姿勢の涵養。
- ★ 探究心を高めるために、感性を磨き「豊かな人間性」を育む課題発見から解決に向けた学習活動。
- ★ 医学・医療、理工、人文社会、芸術、教員養成など様々な分野に関する産官学、高大中と連携した学び。
- ★ 地域への理解を深め、グローバルな視点で社会に貢献していく力を育てる地域と連携した学び。

生徒募集方針

伊那北高校での3年間で充実させたいと考えている次のような生徒諸君を待っています。

- 自己実現、進路実現のために大学進学を考えている生徒
- 他者と協働しながら主体的に物事に取り組みたいと考えている生徒
- 様々なことに興味、関心を抱き、追求しようとする姿勢のある生徒
- 学習以外にも熱心に取り組みたいものがある生徒
- 将来、地域のリーダーを目指したい、日本・世界で活躍したいと考えている生徒
- 自然科学に高い関心があり、大学の理学部、工学部、医学部、薬学部、農学部などで学び、この方面で活躍したいと考えている生徒(理数科)

育てたい生徒像

生徒育成方針

- ★ 広い視野と柔軟な発想力を持ち、社会を広義にイノベーション(刷新)できる生徒。
- ★ たくましい精神力と豊かな人間性、本物の知性を備えた社会をリードする生徒。
- ★ 探究心を持ち、自ら考え自ら行動するとともに、他者と協働する力を持つ生徒。
- ★ 社会の中で自己有用感を持ち、世界、地域での役割を自覚できる生徒。
- ★ 地域で必要とされる人材、世界で必要とされる人材を目標とする生徒。

I 教育課程と学習について

(1) 教育課程とは

高等学校で学ぶ教育内容には、教科・科目の学習活動、総合的な探究の時間（普通科文系・理系コース）・学際探究（普通科学際コース）・理数探究（理数科）、クラブやホームルーム等の特別活動があります。

教育課程とは、教育関係諸法令や本校の教育目標・指導内容に従いその目的を達成する為に、皆さんの心身の発達に応じ、学ぶ順序や授業時間数・単位数を定めたものです。

(2) 学習の評価と単位の履修、修得

ア. 「単位」とは

50分間の授業が1年間に35回行われる事を1単位と言います。従って時間割の中で1年間に学ぶ教科・科目の総単位数（総合的な探究の時間・学際探究・理数探究2単位、ホームルーム活動1単位を含む）は32単位ですから、皆さんが1年間に学ぶ教科学習の総時間は、50分×35回×32単位=56,000分（約933.3時間）です。本校ではこの総時間を55分授業によって学んでいく事になります。

高等学校で学ぶ内容や学習量からみて、この時間数だけで理解し習熟する事は困難です。しかし、学校で学ぶ時間をこれ以上多くする事は物理的にも出来ません。

従って、教育課程は皆さんが自主的・計画的な自宅学習をして学校での学習時間の不足を補充してくれる事を前提としています。

イ. 「履修」とは

全ての高校生が基礎教養として必ず学ばなければならないと定められた科目を、必履修科目と言います。この必履修科目を含め本校では別表の通り、3年間で普通科は94単位、理数科は96単位を履修します（ホームルーム活動3単位を含む）。

各科目について、年間授業時間数の2/3以上出席し、且つ積極的に学習活動に参加したと認められた時、その科目を「履修」として認定されます。

出席時間数が少なかったり、学習活動が不十分と判断され、その科目の履修が認められなかった場合は、再度履修しなければなりません。この場合、3年間での卒業は困難となります。従ってどの教科についても全て履修を認定される様に、授業の欠席や遅刻をしない様にし、更に学習活動にも積極的に取り組まなければなりません。健康に留意し規則正しい学校生活ができる様に心掛けて下さい。

ウ. 学習の「評価」

学習成績は、定期考査や課題テストの結果と日常の学習活動（提出すべき課題・レポート等）を総合して評価されます。

各教科・科目の学習目標に従い、評価は、ABCの観点別学習評価と5段階の評定により示されます。その結果は、科目毎の評価状況を示す度数分布を添えて、各学期末に本人と家庭に通知しますので、評価の結果を謙虚に受け止め、次の学習への励みとしましょう。

エ. 単位の「修得」と進級・卒業

学年末に、各教科・科目について履修したと認められ、且つその教科・科目の定めた目標に到達していると評価されると、その科目の単位を「修得」と認定されます。

各学年で学ぶべき教科・科目について、本校で定めた単位数以上の単位の修得が認められて卒業となります。

出席時間数の不足や不十分な学習活動等で単位の「履修」「修得」を認められない科目があると、3年間での卒業は困難となります。ですから日常の学習活動に真剣に取り組み、単に本校の卒業を目指すだけでなく、所期の目標を達成する努力をして下さい。

（3）普通科の教育課程について

調和のとれた人格の陶冶と、目標意識を持って自ら学ぶ意欲を高め主体的に学習にとり組み、個性や能力を伸ばす事を願って、別表の様に2・3学年に選択科目を用意しました。

選択科目の履修については、大学等の入学試験科目との関連から、明確な進路目標に基づいた選択科目の決定を、皆さんは求められます。

将来を見据え、進路志望に合った科目を選択しましょう。3学年で履修する選択科目がはじめる時期は、今年の7月です。その為には、今から自分の進むべき道を定め、目標を明確にする様に心掛けて下さい。先生方との懇談は夏休み前後から始まります。

（4）理数科の教育課程について

理数科の設置にあたり、次の教育目標・指導方針を定めました。

ア. 「理数科の教育目標」

自然科学や数学に興味・関心を持ち、且つその分野に優れた資質・能力を有する生徒に対して、科学的に思考し創造する能力と態度を養う為、計画的・組織的な教育を行う。

イ. 「理数科の学習方針」

- 1) 調和のとれた豊かな人間形成を目指す。
- 2) 自分の資質・能力を引き出し、更に高める。
- 3) 地域の信頼に応え、社会に貢献出来る人物となる事を目指す。

この教育目標・学習方針に従い、別表の様な教育課程が定められました。普通科にはない専門科目（数学や理科）がありますが、既に理数科で学びたいという目的意識を持った皆さんには十分対応出来ると思います。また専門科目以外の教科の単位数が普通科とほぼ同様なのは、調和のとれた豊かな人間形成を願い、特定の教科・科目に偏らない幅広い教養を培って欲しいとの願いからです。

ウ. 専門教科・科目について

理数科の専門教科・科目の教科書は発行されていないので、普通科と同じ種類の教科書を用います。数学、理科の授業時間数が普通科よりも多い分は、実験・実習・演習等で内容を深めます。また教科書の記述を越えた内容について参考書、問題集、プリント等で補いながら授業が進められます。

さらに授業時間や放課後の時間等を利用して「理数探究」に取り組めます。理数探究は、数学・理科の分野から課題を選び、自らその課題に基づいて調査、研究等を行います。また、その成果の発表会も行なわれます。



【普通科】

教育課程表

(令和7年度入学生適用)

学校番号		58		伊那北高等学校 全日制 普通科												
教科	科目(○は必修)	標準 単位数	1年		2年				3年				合計	備 考		
			必修	選択	学際コース		文・理コース		学際コース		文系コース				理系コース	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
国語	○現代の国語	2	2												2	
	○言語文化	2	2												2	
	古 典 探 究	4			2△	2△	3	3	3	3					3,5	
	* 考 究 現 代 文				2△	2△	2	2	2	2					2,4	
	* 探 究 現 代 文				2△	2△									0,2	
	* 考 究 古 典				2△	2△									0,2	
	* 国 語 探 究				2○2△	2○2△									0,2	
	* 教 養 現 代 文								3☆	3☆					0,3	
	* 発 展 現 代 文								3☆	3☆					0,3	
	* 発 展 古 典								2☆	2☆					0,2	
* 考 究 国 語								2☆	2☆					0,2		
地理歴史	○地理総合	2	2												2	
	地 理 探 究	3			2○2△	2○2△	4 ^④	3☆	4 ^④	3☆	4 ^④	3☆	4 ^④	3☆	0,2,3,4,5,6	
	○歴史総合	2	2												2	
	日 本 史 探 究	3			2○2△	2○2△	4	3☆	4	3☆	4	3☆	4	3☆	0,2,3,4,5,6	
	世 界 史 探 究	3			2○2△	2○2△	4	3☆	4	3☆	4	3☆	4	3☆	0,2,3,4,5,6	
* 地 理 総 合 研 究													2☆	0,2	併せて「公共研究」を履修する	
公民	○公 共 倫 理	2	2	2	2										2	
	政 治 ・ 経 済 倫 理	2							3☆	3☆					0,3	
	政 治 ・ 経 済 倫 理	2							3☆	3☆					0,3,4	
	* 公 共 研 究												2☆	2☆	0,2	併せて「地理総合研究」を履修する
数 学	○数 学 I	3	3												3	
	数 学 II	4			4□	4□									0,4	
	数 学 III	3												3☆	0,3	
	数 学 A	2	2												2	
	数 学 B	2			1△	1△									0,1	
	数 学 C	2			1△	1△								2☆	0,1,3	
	* 総 合 数 学 α 2				4■	4■									0,4	数学IIの内容をすべて含む
	* 総 合 数 学 β 2				2▲	2▲									0,2	
	* 総 合 数 学 α 3							3☆		3☆		3☆	3☆	3☆	0,3	数学Ⅱの内容をすべて含む 総合数学α2を選択した者に限る
	* 総 合 数 学 β 3							2☆		2☆		2☆	2☆	2☆	0,2	総合数学β2を選択した者に限る
* 数 学 研 究 α							3☆		3☆		3☆	3☆	3☆	0,3		
* 数 学 研 究 β							2☆		2☆		2☆	2☆	2☆	0,2		
* 数 学 研 究 γ							4☆		4☆		4☆	4☆	4☆	0,4		
理 科	○物 理 基 礎	2	2												2	
	○化 学 基 礎	2	2	2 ^②	2 ^②										0,2	
	○生 物 基 礎	2	2												2	
	○地 学 基 礎	2	2	2											0,2	
	物 理	4			2○	2○						3 ^③	3 ^③	3 ^③	0,2,3,5	
	化 学	4			2○	2○						3	3	3	0,2,3,5	
	生 物	4			2○	2○						3	3	3	0,2,3,5	
* 基 礎 理 科 α								3☆ ^③	3☆ ^③	3☆ ^③	3☆ ^③	3☆ ^③	3☆ ^③	0,3		
* 基 礎 理 科 β								3☆	3☆	3	3 ^③	3 ^③	3 ^③	0,3		
保 健 体 育	○体 育	7~8	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	7		
	○保 健	2	1	1			1								2	
	* 保 健 体 育 総 合								2☆	2☆					0,2	
芸 術	○音 楽 I	2	2 ^②		2△	2△									0,2	
	音 楽 II	2			2○2△	2○2△			2☆	2☆					0,2	
	* 音 楽 探 究								2☆	2☆					0,2	
	○美 術 I	2	2		2△	2△									0,2	
	美 術 II	2			2○2△	2○2△			2☆	2☆					0,2	
* 美 術 探 究								2☆	2☆					0,2		
外 国 語	○英 語 コミュニケーション I	3	3												3	
	英 語 コミュニケーション II	4					4□								0,4	
	論 理 ・ 表 現 I	2	2												2	
	論 理 ・ 表 現 II	2				2△									0,2	
	* 学 際 英 語 α II			4			4□								0,4	
	* 学 際 英 語 β II			2		2△									0,2	
	* 学 際 英 語 α III							3		3		3	3	3		
	* 学 際 英 語 β III							2		2		2	2	2		
	* 英 語 総 合				2○2△	2○2△									0,2	
	* プラクティカルイングリッシュS								2☆	2☆					0,2	
* プラクティカルイングリッシュF								3☆	3☆					0,3		
* 英 語 探 究								2☆	2☆					0,2		
家 庭	○家 庭 基 礎	2	2												2	
	* ライフデザイン								2☆	2☆					0,2	
情 報	○情 報 I	2	2			2									2	
	情 報 II	2							2☆	2☆		2☆	2☆	2☆	0,2	
* 探 究	* 探 究 α				2○2△	2○2△									0,2	
	* 探 究 β								2☆	2☆					0,2	
理 数	理 数 探 究	2~5				2 ^②								2☆	0,2	
	理 数	2~5				2 ^②								2☆	0,2	
家 庭	フ ード デ ザ イ ン	2~6							3☆	3☆					0,3	
	フ ード デ ザ イ ン	2~6							3☆	3☆					0,3	
各教科・科目の単位数計				29	15	14	9・1	20	25~30	25~30	24~30	82~90				
総合的な探究の時間			3~6	1		2	2					1,3				
学 際 探 究					2	2						0,2				
合 計				30	31		31		25~30	25~30	24~30	85~91				
ホ ー ム ル ーム 活 動			3	1		1				1		3				

注1 *印は学校設定科目

注2 2年次学際コース：○の科目からは2科目まで、△、▲の科目からは3科目まで、□、■の科目からは1科目まで選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。

・2年次普通科：○の科目からは2科目まで、△、▲の科目からは4科目まで、□、■の科目からは2科目まで選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。

・2年次普通科・学際：▲と■の科目は両方を選択すること。

・3年次普通科学際・文系の☆においては、8単位以上を選択する。

・3年次普通科理系の☆においては、5単位以上を選択する。

注3 2年次の「化学」においては「化学基礎」を履修してから履修する。

【理数科】

教育課程表

(令和7年度入学生適用)

学校番号	58		伊那北高等学校 全日制 理数科										合計	備考
	教科	科目(○は必修)	標準 単位数	1年		2年		3年		3年				
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
各学科に共通する各教科・科目	国語	○現代の国語	2	2									2	
		○言語文化	2	2									2	
		○古典探究	4			2△	2△	3		3			0,2,3,5	
		*考究現代文				2△	2△	2		2			2,4	
		*探究現代文				2△	2△						0,2	
		*考究古典				2△	2△						0,2	
		*国語探究				2△	2△	2△					0,2	
		*教養現代文										3☆	0,3	
		*発展現代文										3☆	0,3	
		*発展古典										2☆	0,2	
	*考究国語										2☆	0,2		
	地理歴史	○地理総合	2	2									2	
		○地理探究				2△	2△	2△	4★		4△3☆		0,2,3,4,5,6	
		○歴史総合	2	2									2	
		○歴史探究				2△	2△	2△			4△3☆		0,2,3,4,5	
		○世界史探究				2△	2△	2△			4△3☆		0,2,3,4,5	
		*地理総合研究							2				0,2	併せて「公共研究」を履修する。
	公民	○公民	2		2		2						2	
		○論理									4★		3☆	0,3
		○政治・経済									4★		3☆	0,3,4
		*公共研究				2					2		0,2	併せて「地理総合研究」を履修する。
	数学	*数学研究α								3☆		3☆	0,3	
		*数学研究β								2☆		2☆	0,2	
		*数学研究γ								4☆		4☆	0,4	
		○化学						2○					0,2	
	理科	○物理						2○					0,2	
		○生物						2○					0,2	
	保健体育	○体育	7~8	2	2		2		3		3		7	
○保健		2	1	1		1						2		
*保健体育総合											2☆	0,2		
芸術	○音楽Ⅰ	2	2	②		2△		2△				0,2		
	○音楽Ⅱ	2				2△		2△			2☆	0,2		
	*音楽探究										2☆	0,2		
	○美術Ⅰ	2	2			2△		2△				0,2		
	○美術Ⅱ	2				2△		2△			2☆	0,2		
	*美術探究										2☆	0,2		
外国語	○英語コミュニケーションⅠ	3	3									3		
	○英語コミュニケーションⅡ	4				4□		4□				0,4		
	○論理・表現Ⅰ	2	2					2△				2		
	○論理・表現Ⅱ	2				2△		2△				0,2		
	*学際英語αⅡ					4□		4□				0,4		
	*学際英語βⅡ					2△		2△				0,2		
	*学際英語αⅢ							3		3		3		
	*学際英語βⅢ							2		2		2		
	*英語総合					2△		2△				0,2		
	*フランクフルトイングリッシュ5										2☆	0,2		
	*フランクフルトイングリッシュ4										3☆	0,3		
*英語探究										2☆	0,2			
家庭	○家庭基礎	2	2									2		
	*ライフデザイン										2☆	0,2		
情報	○情報Ⅰ	2		2		2						2		
	○情報Ⅱ	2								2☆		2☆	0,2	
理数	○理数探究基礎	1	1									1		
	○理数探究	2~5		2		2				2☆		2,4		
*探究	*探究α					2△		2△				0,2		
	*探究β										2☆	0,2		
普通教科・科目の単位数計			21	9	10	9	14	13	9~11	13	6~14	53~71		
主眼と認めて履修する科目に、お取り扱い	理数	○理数数学Ⅰ	4~8	4								4		
		○理数数学Ⅱ	7~14	1	6		6			3☆		7,10		
		○理数数学特論	2~6							2☆		0,2		
		○理数物理	3~10	3	2	②			3	③		3,5,6,8		
		○理数化学	3~10	3	4	②		2	②	3	③	1	0,3,4,5,7	
		○理数生物	3~10	3	2	②		2	②	3	③	2	3,5,6,7,8	
家庭	○フードデザイン	2~6				2				1		0,1,2,3		
	○フードデザイン	2~6								3☆	0,3			
専門教科・科目の単位数計			11	12	0	8	0	6	0~5	3	0~3	22~34		
各教科・科目の単位数計			32	21	10	17	14	19	5~11	16	9~14	87~93		
総合的な探究の時間			3~6										理数探究基礎・理数探究で3単位代替する。	
合計			32	21	10	17	14	19	5~11	16	9~14	87~93		
ホームルーム活動			3	1		1				1		3		

注1 *は学校設定科目。
 注2 1年次の『理数数学Ⅱ』においては『理数数学Ⅰ』を履修してから履修する。
 注3 2年次、3年次はコース「ア」またはコース「イ」のどちらか一方を選択する。
 注4 2年次コース「ア」：△の科目からは3科目まで、□の科目からは1科目まで選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。
 ・2年次コース「イ」：○の科目からは2科目まで、△の科目からは3科目まで、□の科目からは1科目まで選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。
 ・3年次コース「ア」：☆、★の科目から5単位以上を選択する。なお、★の科目からは1科目のみの選択とする。
 ・3年次コース「イ」：○の科目より1科目選択する。☆の科目から5単位以上を選択する。なお、同じ科目は単位数が異なっても選択はできない。

II 伊那北高校進路ストーリー

伊那北高校の進路学習は以下の計画に沿って進められます。1年次に考えた自分の進路に関することを振り返りながら、今後の見通しを立てていきましょう。

(1) 3年間の概要

時期	到達目標	概要	
1 学年	4～7 月	学問分野・仕事を知る	大学にはどのような学問分野があるのか、大学での学びや研究がどのような仕事につながるのかなどを調べ、興味関心のある分野を探す。
	夏休み	自分の興味・関心を発見する	オープンキャンパスに参加し、大学の雰囲気、研究設備、カリキュラムなどを知る。そこから、自分の進みたい学問分野について考える。
	8～12 月	学部レベルで進路選択する	興味のある学問分野に進み、進学したい学部・学科を受験するために、高校でどの教科を学ぶ必要があるかを調べる。 文理を選択する。
	1～3 月	大学研究のやり方を知る	志望の学部・学科の入試情報や進学したい大学の情報の集め方を知る。
	春休み	大学や社会が求める人物像を知る	進学したい学部・学科が求める人物像や必要とされる能力、知識を調べる。
2 学年	4～7 月	志望校を見つける	1 月からの大学研究を踏まえ、 自分が進学してみたいと思う大学・学部・学科を探す。
	夏休み	志望校を見に行く	進学してみたい大学のオープンキャンパスに参加し、大学の特徴や雰囲気を確かめる。志望校で総合型選抜・学校推薦型選抜を実施しているか調べる。
	8～12 月	志望校を決める	志望校・学部・学科を決め、入試に必要な科目を調べ、3 年次選択科目を決める。
	1～3 月	受験準備をする	志望校に合格に向かうべく、学習に集中し3 年生0 学期としての意識をもつ。探究活動などを受験で利用するか担任と相談する。
	春休み	入試制度を知る	受験計画を立てるために、志望校の入試制度を調べる。
3 学年	4～7 月	受験計画を立てる	どの入試制度を使って受験するのか、どの教科が入試に必要なかを調べ、自分の受験計画を立てる。
	夏休み	受験に向けて学習する	受験前最後の長期休業を利用し、自らの課題を設定し、学習に集中する。
	8～12 月	受験計画の見直し	自分の学力レベルに合わせて、志望校や入試制度について考え直し、受験カレンダーを作成する。
	1 月	出願校を決める	大学入学共通テストを受験し、出願校を決める。

自分の進路段階を確認しよう

上の表は3年間の進路計画の概要を示しています。この表を見て、今の時期に進路学習の段階がどこまで進んでいるべきか確認しましょう。また、自分の進路段階がどこにいるのかも確認しましょう。

揺るぎない基礎学力を身につけよう

君たちが受験する大学入学共通テストの問題の7割は1, 2年生の分野から出題されます。1, 2年生が勝負です。高い志望を叶えるには、まずは基礎固めからです。

(2) 2学年の詳細

月	目標〔行事〕	H R・考査・進路行事等	メッセージ
4	学習習慣の構築 〔春期クラスマッチ〕	課題テスト 第1回進路希望調査 夢ナビライブオンライン	学習方法を見つめなおそう 1年間の目標を決めよう
5	部活と学習の両立 〔南信総体〕	面接週間 大学調べ	職業適性について考えよう 進学したい学部・学科について考えよう
6	文化祭への積極参加 〔ペン祭〕	第1回考査	定期考査の振り返りをしよう 高校生らしい文化祭づくりに挑戦しよう
7	学習方法の点検改善	進研模試 三者懇談・成績下位者の補習	切り替えの気持ちを意識的に持とう 自分の興味関心はどこにあるのかを知らう 模試の振り返り癖をつけよう
夏休	規則正しい生活 不得意科目の克服	大学見学会〈希望者〉 オープンキャンパス	計画を立てて規則正しい生活をしよう 自分の苦手科目、苦手分野を克服しよう 進学したい学部・学科のオープンキャンパスに参加しよう
8	生活リズムの再点検	課題テスト	入学時の心境にもう一度戻ろう！ 家庭学習の習慣の再確立
9	自己理解と進路研究 〔合唱コンクール〕 〔秋期クラスマッチ〕	第2回考査 第2回進路希望調査 3年次選択科目希望調査	進学したい学部・学科を決め、3年次の選択科目について考えよう
10	選択科目の決定	面談週間 駿台模試〈希望者〉 進研模試	自己理解を深めよう 選択科目を見極めよう
11	研修旅行への参加 〔研修旅行〕	第3回考査	落ちついて学習に取り組もう 部活動との両立を実現させよう 研修旅行を通じて将来について考えよう
12	3年生0学期		受験生であることの自覚をもち、学習に向かう姿勢を確立しよう 気候変化に合った体調の自己管理を考えよう
冬休	1年の反省・新年の決意		課題テストに向けて計画的な学習をしよう
1	大学入試の概略理解 志望校宣言	課題テスト 進研模試 共通テストチャレンジ	大学入学共通テストの概要を知ろう 志望校を決め、進路実現のための学習計画を立てよう！
2	2年生の総仕上げ	第4回考査 駿台模試〈希望者〉	学年末の引き締めをしよう 学年最後のテストをがんばろう
3	3年生への中継ぎ 〔特編授業〕	第3回進路希望調査 スタディーサポート	特編授業の意義を理解し、緊張感を持って勉強に取り組もう 1年の総まとめをしよう
春休	目標の確認		受験に向けての1年間の計画を立てよう

2年とはどのような学年か

クラブ・生徒会活動に活動の中心となって活躍する学年です。クラブは夏休み前には3年生も引退し、いよいよ諸君たちが主役になります。また、生徒会もペン祭が終わればバトンタッチです。こういった活動（特別活動）に溢れんばかりの若いエネルギーを注いで、二度とない高校生活を意義深いものにすると同時に、これまで述べてきたように、自分の進路や学力というもう一方の大きな車輪も回すことを肝に銘じて下さい。秋には各自の進路に応じた類型や教科の選択という大きな分岐点を迎えます。

ある程度の高度を得た鳥は、風を受け気流に乗って順調に飛行すると言われています。この高度を落とし始めると、あっという間に落ちてしまいます。また、1年で十分な高度をとれなかった人は、早めに”上昇”するようにがんばって下さい。

Ⅲ 真剣に進路について考えよう

1 「進路」ってなんだ？

本校においては、4年制大学への進学者が大多数です。だからどうしても「どこの大学に入るか（入れるか）」という形でのみ進路の話が進んで行く傾向があります。しかし進路を考える基本は「どのような生き方をするか」ということです。その場合、大前提になるのは各人の「何に興味をもっているか」「どのような関係のことを深く学びたいか」また「どのような方面の職業に就きたいか」という希望や考えです。それを踏まえた上で、学校やその学部・学科・専攻等の選択を行わないと、本末が転倒して何のための進路か判らなくなってしまいます。「何がなんでも〇〇大学」という憧れ一筋というのも否定はしませんが、それでもその大学・学部で何をしたいのかという視点を忘れないようにしましょう。

2 勉強と情報収集 ～進路決定における2大課題～

「入試をクリアする学力」の準備は必要不可欠です。それは大学に限ったことではありません。どんな進路を選ぶにしてもそれに見合った力（学力・能力）が求められることを肝に銘じておきましょう。とりあえず、すべての人にとって、大学入学共通テストレベルの問題をこなせる学力を身につけることが課題になる、と行ってよいでしょう。

それではどうしたらよいのでしょうか。学力をつけるには勉強しなければなりません。1年次は2～3時間の家庭学習が必要でした。2年次には2～3時間の家庭学習を維持しながら、質を高めていくことが要求されます。何をどうやるかはこの各教科からのアドバイスや「シラバス」を参考にしてください。また、その他の様々な情報に対しても敏感になって、お互いに切磋琢磨しながら目標に向かっていきましょう。

3 志望校選択のポイント

① 明確な目的意識を持つ

何を学びたいのか？／将来どんな職業に就きたいのか？

② 教育・研究内容を調べる

どんな先生がいて、どんな講座があるのか？／どんな環境で、どんな施設があるのか？

③ 取得できる資格・卒業後の進路を確認する

どんな資格が取れるのか？／卒業生の就職・進学状況は？

④ 難易度を調べる

どの程度の学力があればいいのか？

⑤ 入試科目を調べる

年度ごとに状況が変わることがある。常に最新情報に注目しておこう

国公立→共通テストの科目は？／2次試験の科目は？

私立→共通テスト利用は？／試験科目は？

⑥ 費用を調べる

受験にかかる費用は？／入学後に必要な費用は？

4 進路決定の参考となるもの

① 進路指導室

進路担当の先生が常駐していて、様々な相談や資料提供に応じてくれる。

② 学級担任および教科担任

先生方の経験や蓄積された知識、情報、ノウハウを役立てないのはもったいない。自分だけで悩まずにおおいに先生を活用しよう。

③ 家族の意見

自分の適性、性格、思いを一番よくわかり、もっとも真剣に心配してくれるのが家族です。高額な受験費用や学費・生活費を負担してくれるのも家族です。家族のみなさんの理解と協力があってはじめて進路実現が可能となるのです。家族全員から支援されるような進路希望と学習・生活状況でありたいものです。

④ 友人・仲間・先輩

友人との情報交換や励まし合いが、進路決定の大きな要因となることがあります。しかし、怠けてしまったときの慰めあいは禁物。”みんなで……れば怖くない”では困ります。

⑤ 情報誌・新聞・TV・インターネットなど

現代社会は様々な情報で溢れています。自分に必要な情報を選んで上手に利用できればおおいに参考になります。しかし、必要以上に情報を過信したり惑わされたりするのも危険です。何を参考にしてよいかわからなくなったら、担任の先生や進路の先生などに相談するとよいでしょう。

5 合格するために

① 不合格の原因（浪人生のアンケートより主なものを抜粋）

- (1) 受験勉強のスタートが遅かった
- (2) 苦手科目克服の対策をしなかった
- (3) 日によって勉強時間にムラがあった
- (4) 教科書を軽視して、基礎基本が身に付いていなかった
- (5) 「ながら勉強」をしていて、集中力が足りなかった

② 合格するためのポイント

- (1) 家庭学習を継続する

- (2) 苦手科目を早めに克服する（英数国は特に早めに）
- (3) 時間を上手に使う（授業に集中する。家庭での時間の使い方を工夫する）

先輩の経験談

- ・ 授業をおろそかにしたため、後で取り返すのが大変だった。
- ・ 夕食までを復習に、夕食後を予習にした。
- ・ 就寝前に翌日の学習計画を立て、ノートに記入した。翌日はノートをみながら学習し、最後に計画通りできたか確認してそれに基づいてまた翌日の計画を立てた。この繰り返しで規則正しい無駄のない生活ができた。

- (4) 基礎・基本を身につける（授業を大切に）

入試問題における教科書・授業レベルからの出題率	
共通テスト	100%
4年制大学（国公立二次・私立）の大半	80%以上

- (5) 受け身でない学習方法を身につける（予習→授業→復習の流れを）
- (6) 早くから目標を定め、目標達成のための計画を立てる
- (7) 体を鍛える（受験勉強には体力が必要。体育の授業も真剣に）

IV 入試システム解説

国公立大、私立大ともに入試には「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」の3種類があります（順に、旧称「一般入試」「AO入試」「推薦入試」）。

ここでは、まず全ての受験方式において重要になる「共通テスト」について説明した後、国公立大学及び私立大学における個別の選抜方法について説明します。

1 大学入学共通テスト

2021年度入試からそれまでの「センター試験」に代わって「大学入学共通テスト」が実施されています。共通テストは毎年1月中旬の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施され、毎年50万人以上が受験する日本最大規模の試験です。時間割は以下の通りです（大学入試センターHPより）。

国公立大学の一般入試受験者は、原則、共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績が利用できる「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではないでしょう。

試験日	出題教科	出題科目	試験時間
第1日	地理歴史 公民	『地理総合, 地理探究』 『歴史総合, 日本史探究』 『歴史総合, 世界史探究』 『公共, 倫理』『公共, 政治・経済』 『地理総合/歴史総合/公共』(注1)	2科目選択 9:30～11:40(注2) 1科目選択 10:40～11:40
	国語	『国語』	13:00～14:30
	外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	『英語』【リーディング】 『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』 【筆記】 15:20～16:40 『英語』【リスニング】 17:20～18:20(注3)
第2日	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/ 地学基礎』(注1) 『物理』『化学』『生物』『地学』	2科目選択 9:30～11:40(注2) 1科目選択 10:40～11:40
	数学①	『数学Ⅰ, 数学A』『数学Ⅰ』	13:00～14:10
	数学②	『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』	15:00～16:10
	情報	『情報Ⅰ』	17:00～18:00

・共通テストの主な特徴

共通テストは国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の7教科21科目で構成されます。この中から、最大8科目（理科基礎を選択した場合は9科目）を受験できます。受験生は、志望大学が指定する教科・科目を選択して受験することになります。

それぞれの試験時間帯で受験できる科目は、地理歴史・公民と理科は最大2科目（理科基礎を選択した場合は3科目）、そのほかの教科は1科目となっています。また、「英語」の受験者には、「リーディング」とは別の時間帯で実施される「リスニング」が必須となっています。

出題は全教科とも「マークシート方式」で実施されます。問題はそれぞれの教科の基礎の部分をしっかり身につけているかどうかによって重点が置かれています。それほど難問が出題されることはなく、高校の授業や教科書の内容を着実に身につけていれば解答できる問題です。ただし、科目によっては問題数が多く、解答するスピードが要求されます。

「英語」受験者は必須となっているリスニング対策も欠かせません。リスニングは各受験者に配られるICプレーヤーで実施されます。試験内容はもとより、その独特な試験形式にも慣れるべく、予備校等が実施する模擬試験を活用するなど、しっかりと準備をしておきましょう。

(2) 総合型選抜

出願条件は、評定平均値といった成績基準がなかったり、高卒生でも出願できるなど、推薦入試より緩やかな場合が多いです。ただし、大学によっては「英検などの有資格者」「全国コンテストの上位入賞者」といった条件が加わっていることもあります。

また、調査書等の出願書類だけでなく、(1)各大学が実施する評価方法等(例：小論文、面接、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)、もしくは(2)「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つの活用を必須化することとしています。また、志願者本人の記載する資料(活動報告書、入学希望理由書、学修計画書等)を積極的に活用することとしています。

(3) 学校推薦型選抜

一般選抜との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では、基本的に「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています。

推薦入試を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。受験にあたっては、推薦入試向けの準備も必要です。

実際の試験では、調査書等の出願書類だけでなく、(1)各大学が実施する評価方法等(例：小論文、面接、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)もしくは(2)「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つによる評価が必須化されています。また、推薦書において(1)本人の学習歴や活動歴を踏まえた「学力の3要素」に関する評価を記載すること、及び(2)大学が選抜でこれらを活用することのどちらも必須化されています。

※ なお、多面的・総合的な選抜が重視される方向性が示されるなかで、国立大学では学校推薦型選抜・総合型選抜(=推薦・AO入試)が年々拡大しています。国立大学の団体である国立大学協会は、現在2割に達していない推薦・AO入試の募集人員の割合を、最終的には3割まで拡大するという方向性を示しています。私立大学の入学者数の半数が推薦・AO入試で入学している現状と比較すると、まだまだ一般入試中心の入試であることには変わりはありません。しかし、多面的・総合的な選抜へ転換していくなかで、徐々に学校推薦型選抜・総合型選抜の募集枠を拡大していく動きは今後も続きそうです。

3 私立大学入試のしくみ

(1) 一般選抜

国公立大学とは異なり、多様な選抜方法があります。

① 共通テスト利用入試

共通テストの成績をもとに合否が決まる入試方式のこと。私立大でも共通テスト利用入試を実施する大学が約8割となっており、私立大を志望する受験生にとっても関係の深い試験になっています。私立大ごとの入試対策をせずに済むため、国公立大が第一志望で私立大を併願受験する人が、この方式を利用する人が多いようです。

ただし、共通テスト利用入試は、募集人員がかなり少なく、倍率が高くなる大学が多いので、合格の難易度も当然高くなることも念頭に置いておきましょう。

② 柔軟性に富んだ選択科目等

複数科目の中から受験科目を選択させたり、教科によって配点に違いをもたせたりするなど、受験生が得意教科を活かして受験できます。学科試験以外に小論文や複数教科を融合した総合問題を出題する大学も増えています。また、実用英語検定などの取得級を点数化して試験の点数に加点できる大学もあります。

③ 試験日自由選択制

「試験日自由選択制」とは、同一学部・学科の試験日を2～3日の範囲で設定し、受験生がその中から都合の良い日を自由に選ぶことができるという制度です。このため同じ学部・学科を2回以上受験できたり、複数の学科に出願できたりと、併願の幅が広がります。

(2) 総合型選抜

→ 国公立大学の説明を参照して下さい。

(3) 学校推薦型選抜

→ 国公立大学の説明を参照して下さい。

(※) 国公立大学の項で説明したものの他に、指定校制推薦があります。この推薦は応募できる受験生の出身校が予め指定されている制度をいいます。指定は、その高校からの入学者数や入学後の成績など過去の実績に基づいて行われます。指定校制推薦は、高校と大学との信頼関係によって成り立っていることを肝に銘じる必要があり、併願はできないのでよく考慮した上で出願する必要があります。

4 小論文について

最後に、国公立・私立大学に関わらず、どの選抜方式でも出題が増えてきた小論文について触れます。

① 小論文とは

小論文とは、社会問題や時事問題など与えられたテーマについて自分の意見を論理的・客観的に

表現することです。したがって小論文では基本的知識・考え方・洞察力が観点となります。課題文の印象を述べる作文（感想文）とは違います。

② 小論文入試を行う目的

- ・ 受験生の一般的な論理的思考力・記述力を見る
学部や入試の種類に関わらず、受験生の一般的な論理的思考力・記述力を見る問題。受験生の受験勉強以外の広範な学習歴を試すことが目的。
- ・ 受験生の志望学部への適性を見る
学部で学ぶ内容と直結した問題。自分が志望する学部の学習内容に関して、ある程度知識があるかどうかを試すことが目的。
- ・ 受験生の基本的な読み書き能力を見る
主述の一致や単語の使い方など、普段の国語力を確認するのが目的。

5 まとめ

複雑な入試制度ですが、次の点はよく確認してください。

① 大学選択の幅を広げておこう。

入試科目が減るほど、高得点が要求されます（国公立、私立ともに）。途中で科目を減らすことはできても、増やすことは難しい上に、共通テストが6教科8科目中心であることを考えれば、**伊那北高校のすべてのカリキュラムが必要になってくる**といっても過言ではありません。全国のすべての国公立志望の高校生が皆同じ立場にあるのですから、安易な方向に流されずオールラウンドに学習することを怠らないようにしましょう。

② 大学に関心を持とう。

細部は大学ごとに異なるのが現在の入試です。何より**事前研究を怠ることのない**ようにしましょう。共通テストでどの科目が必要となるのか、個別試験はどうなのか等、常に最新情報に注意しておく姿勢が必要です。また、大学と自分の志望とのマッチングもとても重要です。**各大学のアドミッションポリシーなどにも必ず目を通し理解を深めておきましょう。**

科目	考究現代文		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学 年	2	学 科	普通科 理数科
使用教科書	精選 論理国語（東京書籍） 文学国語（東京書籍）		副教材等	『大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000』（尚文出版）、 その他各種問題集						
学習の目標	近代以降の様々な文章を読み的確に理解するとともに適切に表現する能力を育む。また、文学的文章と論理的文章を結びつけて読み比べることで、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り、人生を豊かにする態度を養う。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力・語彙力の向上に努めること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。特に復習が重要である。 ・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考（使用教材）			時数	
4 5 6	評論① 小説① 評論②	・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・自らの意見を効果的に表現する力を付ける。（全単元）	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・表現の特徴に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・対立する意見の文章を読み、立場を明確にして意見を書く。（評論分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「いつもそばには本があった」（國分功一郎） ・「ミロのヴィーナス」（清岡卓行） ・「山月記」（中島敦） 			15	
第1回考査										
6 7 8 9	随想 詩歌① 評論③ 小説②	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・筆者の見解を応用する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（詩歌分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・評論との読み比べを通して、美を語る手法について考えを深める。（随想分野） ・作品の成立した背景などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。（詩歌分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光の窓」（小池昌代） ・「永訣の朝」（宮沢賢治） ・「メディアの変容」（土井隆義） ・「まど」（いしいしんじ） 			16	
第2回考査										
9 10 11	評論④ 小説③ 評論⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・筆者の見解を踏まえて具体的事象について分析する。（全単元） ・文章を批評することを通して自分の考えを深め、発展させる。（評論分野） ・小説で描かれた内容を自分に引きつけて考えるとともに感想を伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・『「リスク」と「リスク社会」』（神里達博） ・「こころ」（夏目漱石） ・『「環境」とは何か』（上柿崇英） 			15	
第3回考査										
12 1 2 3	小説③ 評論⑥ 小説④	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・他の資料等を読み比べる力を付ける。（評論分野） ・ものの見方・考え方を豊かにする。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・関連する文章や資料を基に、作者の立場や目的を考えながら内容の解釈を深める。（全単元） ・物語の展開や状況の変化に注意して読み、現代の社会や自らの生活を捉え直すとともに感想を伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「鞆」（安部公房） ・「日本人の美意識」（高階秀爾） ・「あの朝」（角田光代） 			15	
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。		論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。				
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。		定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。			課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

科目	探究現代文		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学 年	2	学 科	普通科 理数科
使用教科書	精選 論理国語（東京書籍） 文学国語（東京書籍）		副教材等		『大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000』（尚文出版）、 その他各種問題集					
学習の目標	論理的な文章および文学的な文章の特質を理解したうえで読解する能力を養う。またその内容や考えを他者に分かりやすく伝える活動を通して思考を整理し、根拠をもって言葉として表現する力を育む。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力・語彙力の向上に努めること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。特に復習が重要である。 ・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考（使用教材）			時数	
4 5 6	評論① 小説① 評論②	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・自らの意見を効果的に表現する力を付ける。（全単元） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・表現の特徴に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・立場を明確にして、自己の体験を踏まえて意見を書き、他者に分かりやすく伝える。（評論分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「いつもそばには本があった」（國分功一郎） ・「ミロのヴィーナス」（清岡卓行） ・「山月記」（中島敦） 			15	
第1回考査										1
6 7 8 9	随想 詩歌① 評論③ 小説②	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・筆者の見解を応用する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（詩歌分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・美を語る手法について他者に分かりやすく伝える活動を通して、自身の考えを深める。（随想分野） ・作品の成立した背景などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。（詩歌分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光の窓」（小池昌代） ・「永訣の朝」（宮沢賢治） ・「メディアの変容」（土井隆義） ・「まど」（いしいしんじ） 			16	
第2回考査										1
9 10 11	評論④ 小説③ 評論⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・筆者の見解を踏まえて具体的な事象について分析する。（全単元） ・他者と自分の考えを共有することを通して、自分の考えを深め発展させる。（評論分野） ・小説で描かれた内容を自分に引きつけて考えるとともに感想をわかりやすく伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・『「リスク」と「リスク社会」』（神里達博） ・「こころ」（夏目漱石） ・『「環境」とは何か』（上柿崇英） 			15	
第3回考査										1
12 1 2 3	小説③ 評論⑥ 小説④	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・他の資料等を読み比べる力を付ける。（評論分野） ・ものの見方・考え方を豊かにする。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・関連する文章や資料を基に、作者の立場や目的を考えながら内容の解釈を深める。（全単元） ・物語の展開や状況の変化に注意して読み、現代の社会や自らの生活を捉え直すとともに感想を伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「鞆」（安部公房） ・「日本人の美意識」（高階秀爾） ・「あの朝」（角田光代） 			15	
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。		論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。				
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。		定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。			課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

科目	古典探究		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科・理 数科	
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編 高等学校 古典探究 漢文編 (ともに第一学習社)		副教材等	新修古典文法(京都書房)、精説漢文(いづな書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、その他各種問題集							
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組むこと。 ・多様な文章に触れ、読み慣れること。 ・探究的な学びを意識すること。 										
月	単元名	指導目標	学習内容			備考(使用教材)	時数				
4 5 6	[古文] 物語1 和歌 [漢文] 故事・寓 話	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。(全単元) ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(古文分野) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。(全単元) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。(全単元) ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語彙を豊かにする。 [活動] 同じ題材を取り上げた複数の作品を読み比べ、関心や疑問を持ったことについて調べて日発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「かぐや姫の昇天」(竹取物語) ・和歌(万葉集)(古今和歌集)(新古今和歌集) ・「推敲」(唐詩紀事)「吳越同舟」(孫子)「嬰逆鱗」(韓非子)「知音」(呂氏春秋) 	15				
第1回考査							1				
6 7 8 9	[古文] 随筆1 [漢文] 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(全単元) ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。(古文分野) ・古典が現代の言葉の成り立ちに及ぼした影響について理解を深める。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・読解に必要な敬語・助詞(古文分野)や、句形(漢文分野)などの基本事項を理解する。 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。(漢文分野) [活動] 四字熟語や言葉の由来となった漢文を探す。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「宮に初めて参りたるころ」(枕草子) ・「鴻門の会」(史記) ・「四面楚歌」(史記) 	15				
第2回考査							1				
9 10 11	[古文] 物語2 [漢文] 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・源氏物語を読む楽しさを実感する。(古文分野) ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。(漢文分野) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。(古文分野) ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。(古文分野) ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。(漢文分野) [活動] 源氏物語が影響を受けた作品、影響を与えた作品を挙げて、源氏物語の魅力について考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光る君誕生」「若紫」(源氏物語) ・「不出門」(菅原道真)「送夏目漱石之伊予」(正岡子規) ・「売鬼」(搜神記) 	15				
第3回考査							1				
12 1 2 3	[古文] 物語2 [漢文] 諸家の 思想	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。(古文分野) ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、社会に対する自分の考えを広げたり深めたりする。(漢文分野) [活動] 違う作品では登場人物がどのように描かれているのか相違点と共通点をまとめ発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「弓争い」(大鏡) ・「性善」(孟子)「侵官之害」(韓非子) 	15				

第4回考査			1
評価標準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、探究のレポート・発表等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み、探究の内容等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。

令和8年度シラバス【 考究古典 】

長野県伊那北高等学校

科目	考究古典	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科・理数科	
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編 高等学校 古典探究 漢文編	副教材等		新修古典文法（京都書房）、精説漢文（いっずな書店）、読んで見て覚える重要古文単語315（桐原書店）、その他各種問題集						
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組むこと。 ・多様な文章に触れ、読み慣れること。 ・探究的な学びを意識すること。 									
月	単元名	指導目標	学習内容	備考（使用教材）	時数					
4 5 6	[古文] 物語1 和歌 [漢文] 故事・寓 話	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。(全単元) ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(古文分野) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。(全単元) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。(全単元) ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語彙を豊かにする。 [活動] 本歌取り、引き歌を探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぐや姫の昇天」(竹取物語) ・和歌(万葉集)(古今和歌集)(新古今和歌集) ・「推敲」(唐詩紀事)「呉越同舟」(孫子)「嬰逆鱗」(韓非子)「知音」(呂氏春秋) 	15					
第1回考査						1				
6 7 8 9	[古文] 随筆1 [漢文] 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(全単元) ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。(古文分野) ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・読解に必要な敬語・助詞(古文分野)や、句形(漢文分野)などの基本事項を理解する。 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。(漢文分野) ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。(漢文分野) [活動] 四字熟語や言葉の由来となった漢文を探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮に初めて参りたるころ」(枕草子) ・「鴻門の会」(史記) ・「四面楚歌」(史記) 	15					
第2回考査						1				
9 10 11	[古文] 物語2 [漢文] 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・源氏物語を読む楽しさを実感する。(古文分野) ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。(漢文分野) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。(古文分野) ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。(古文分野) ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。(漢文分野) [活動] 源氏物語が影響を受けた作品、影響を与えた作品を挙げて、源氏物語の魅力について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「光る君誕生」「若紫」(源氏物語) ・「不出門」(菅原道真)「送夏目漱石之伊予」(正岡子規) ・「売鬼」(搜神記) 	15					

		を深め、作品の価値について考察する。			
第3回考査					1
12 1 2 3	[古文] 物語2 [漢文] 諸家の 思想	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野)	・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。(古文分野) ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさについて考え、意見交流をする。(漢文分野) [活動] 違う作品では登場人物がどのように描かれているのか相違点と共通点をまとめ発表する。	・「弓争い」(大鏡) ・「性善」(孟子)「侵官之害」(韓非子)	15
第4回考査					1
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通じた先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
	評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、探究のレポート・発表等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み、探究の内容等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	

数 学

(1) 学習の心構え

学習以外にもいえることですが、何事にも時間や手間をかけないとできるようになったり、うまくなったりはしません。基本から始めて着実に丁寧に正しく積み重ねていけば必ず力がつきます。すぐに結果や点数に結びつくことはほとんどありません。継続的に学習することが一番の近道です。

自力でじっくり考えることが大切です。ひとつの問いに対して「こうやればうまくいきそうだな」「この道筋でやってもだめだから違うやり方でやってみよう」とかが大切です。最終的に自力ではわからなかったとしてもその過程で「今自分が知っていることをフル活用していろいろ考えてみた」ということは必ず自分の力になります。時間には限りがありますが、自力で考えることを大事にしてください。

学習したことについて問題演習（レベルが高い問題も含めて）を積極的に行い、アウトプットの量を増やしましょう。一つの問いに対して答えに行きつくまでの道のり一つとは限りません。いろいろな道のり、いろいろな角度から考えることもとても大切です。問題演習をする際は、答えがあっていた場合でも別解があればそれも理解しましょう。考え方の武器が増えます。また互いに教え合う、考え合うことで自分では気づかなかった道筋や考え方が発見でき一人で学習するより互いの力を高めます。

(2) 学習の方法

毎日の授業を大切にし、家庭学習を継続して下さい。その日に学習したことは必ず復習をし、内容の理解を確かなものとなるように完成ノートA問題を解きましょう。完成ノートA問題は授業のペースに合わせて進めて下さい。数学が苦手だと感じる人は特に復習をきちんと行うとよいでしょう。疑問点や理解できない部分は放置せずに先生に質問をしましょう。授業中や問題演習をする際のノートの使い方ですが、できるだけゆとりをもって説明や解答を書くようにしましょう。図やグラフを大きくことも大事ですし、後々自分で書き込みができるようにしておきましょう。また、授業用ノート、個人でやる演習ノート、テストや模試の間違い集約ノートなど用途に分けてノートを用意するとよいでしょう。

(3) 教材の使い方

- ・教科書・・・一番基本となるものです。書かれていることを丁寧に読みましょう。行間が省略されている場合は、省略部分を読み取ることも大切です。公式、例題、練習以外のところもきちんと理解することを意識してください。
- ・問題集（クリアー・4STEP）・・・基本問題、応用問題の演習を繰り返し行います。土台作りのためにその日学習した部分は毎日やり、継続して繰り返し取り組んで下さい。定期的に提出してもらいます。
- ・チャート・・・問題の解法を確認、理解する。授業では扱わないが、大学入試では重要となる問題が多く掲載されています。例題を理解したあと練習問題に自力で取り組んでみましょう。発展的な内容もあるので積極的に目を通しましょう。

(4) 成績の評価方法

定期考査の点数、Weeklyテストの点数、提出物の内容と提出状況、出欠状況

2. 数学

令和6年度シラバス【数学ⅡBC】：文系

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C						
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	図形と方程式	それぞれの単元	点と直線, 円の方程式, 円と直線, 軌跡と領域			↓数学Ⅱ	15		
5	三角関数	での定義などを	三角関数, 加法定理				18		
6	指数関数・対数関数	理解し、演習につなげていく	指数の拡張, 指数関数, 対数関数, 常用対数				12		
第1回考査							1		
6	微分法・積分法	それぞれの単元	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 不定積分,			↓数学B	25		
7		での定義などを	定積分, 定積分と面積						
8		理解し、演習に							
9		つなげていく							
第2回考査									
9					↓数学C				
10									
11									
第3回考査									
12	演習問題	それぞれの単元	演習問題に取り組む				10		
1		での定義などを							
2	理解し、演習につなげていく								
第4回考査							1		
3							7		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			

	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問

科目	数学 B	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 B	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C						
学習の目標	数列、統計的な推測の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 5 6					↓数学Ⅱ				
第1回考査									
6 7 8 9	数列	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式		↓数学 B	2 1			
第2回考査									
9 10 11 12	統計的な推測	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布		↓数学 C	1 9			
第3回考査									
1									

12 1 2		それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく			
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	数列、統計的な推測の考え における基本的な概念、原 理・法則などを体系的に理 解し基礎的な知識を身につ け、数学的に処理する仕方 や推論方法などの技能を身 に付けている。	当該分野において、事象を数学的に 考察し表現したり、思考の過程を振 り返り多面的・発展的に考えたりす ることなどを通して、数学的な見方 や考え方、表現・処理する技能を身 に付けている。	当該分野における考え方に関心を 持つとともに、数学のよさを認識 し、事象の考察に活用して数学的 な考え方に基づいた探究をしよう とする。		
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テ スト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問		

科目	数学 C	単 位 数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学 年	2	学 科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 C	副教材等	(問題集) クリアー数学II+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学II+B+C						
学習の目標	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6						↓数学II			
第1回考査									
6 7 8 9						↓数学B			
第2回考査									
9 10 11 12	数列 平面上のベク トル 空間のベクト	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく	ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの 内積 位置ベクトル, ベクトルと図形			↓数学C	15		12

	ル				
第3回考査					1
12 1 2	演習問題	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく	演習問題に取り組む		3 2
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能	ベクトル、複素数平面、式 と曲線の考えにおける基本 的な概念、原理・法則など を体系的に理解し基礎的な 知識を身につけ、数学的に 処理する仕方や推論方法な どの技能を身に付けてい る。	思考・判断・表現	当該分野において、事象を数学的に 考察し表現したり、思考の過程を振 り返り多面的・発展的に考えたりす ることなどを通して、数学的な見方 や考え方、表現・処理する技能を身 に付けている。	主体的に学習に取り組む態度
	当該分野における考え方に関心を 持つとともに、数学のよさを認識 し、事象の考察に活用して数学的 な考え方に基づいた探究をしよう とする。				
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テ スト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問		

令和6年度シラバス【数学ⅡBC】：理系

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ 高等学校 数学Ⅲ	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C						
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	図形と方程式	それぞれの単元	点と直線、円の方方程式、円と直線、軌跡と領域			↓数学Ⅱ	15		
5	三角関数	での定義などを	三角関数、加法定理				18		
6	指数関数・対数関数	理解し、演習につなげていく	指数の拡張、指数関数、対数関数、常用対数				12		
第1回考査							1		
6	微分法・積分法	それぞれの単元	微分係数と導関数、関数の値の変化、不定積分、			↓数学B	25		
7		での定義などを	定積分、定積分と面積						
8		理解し、演習に							
9		つなげていく							
第2回考査									
9						↓数学C			
10									
11									
第3回考査									
12	関数	それぞれの単元	分数関数、無理関数、逆関数と合成関数			↓数学Ⅲ	14		
1		での定義などを					21		
2		理解し、演習につなげていく							
第4回考査							1		
3	極限		数列の極限、無限等比数列、無限級数				5		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方			当該分野における考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしよう			

	原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	とする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問

科目	数学 B	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 B	副教材等		(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C					
学習の目標	数列、統計的な推測の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考			時数	
4 5 6					↓数学Ⅱ				
第1回考査									
6 7 8 9	数列	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式		↓数学 B			2 1	
第2回考査									
9 10 11 12	統計的な推測	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布		↓数学 C			1 9	
第3回考査									
12 1		それぞれの単元での定義などを						1	

2		理解し、演習につなげていく		↓数学Ⅲ	
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	数列、統計的な推測の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。		当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト		提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

科目	数学 C	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 C	副教材等		(問題集) クリアー数学Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C					
学習の目標	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考		時数	
4 5 6						↓数学Ⅱ			
第1回考査									
6 7 8 9						↓数学 B			
第2回考査									

9	数列	それぞれの単元	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式	↓数学 C	1 5
10	平面上のベクトル	での定義などを理解し、演習につなげていく	ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの内積		1 2
11	空間のベクトル		位置ベクトル, ベクトルと図形		
第3回考査					1
12				↓数学III	
1					
2					
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)		課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

令和6年度シラバス 理数科【理数数学Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	理数数学Ⅱ	単位数	6	授業時間 [総時数]	55分 [192回]	学年	2	学科	理数科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ、B、C 高等学校 数学Ⅲ	副教材等	(問題集) 4STEP 数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C						
学習の目標	「理数数学Ⅰ」の基礎の上に立ち、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばし、知識及び技能などを積極的に活用する力を身につける。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を通して、知識・技能の習得をはかり、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4	三角関数	それぞれの単元	三角関数, 加法定理		数学Ⅱ	17			
5	指数関数・対	での定義などを	指数の拡張, 指数関数, 対数関数, 常用対数			10			
6	数関数 微分法・積分法	理解し、演習に つなげていく				14			
第1回考査						2			
6	微分法・積分法	それぞれの単元	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 不定積分, 定積分, 定積分と面積		数学B	10			
7		での定義などを							
8	数列	理解し、演習に つなげていく	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化 式			15			
9	統計的な推測		確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布			17			
第2回考査						2			
9	平面上のベクトル	それぞれの単元	ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの内積		数学C	14			
10	空間上のベクトル	での定義などを	位置ベクトル, ベクトルと図形		数学C	10			
11	関数 極限	理解し、演習に つなげていく	分数関数, 無理関数, 逆関数と合成関数 数列の極限, 無限等比数列, 無限級数		数学Ⅲ	20			
第3回考査						2			
12	極限	それぞれの単元	数列の極限, 無限等比数列, 無限級数		数学Ⅲ	6			
1	微分法	での定義などを	導関数・いろいろな関数の導関数			20			
2	積分法	理解し、演習に つなげていく	不定積分			13 14			
第4回考査						2			
3	積分法	それぞれの単元	定積分		数学Ⅲ	5			
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				

	<p>いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。</p>	<p>当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。</p>	<p>当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)</p>	<p>課題レポート 定期考査、他テスト</p>	<p>提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問</p>

令和8年度シラバス【英語コミュニケーションⅡ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	普通科 理数科	
使用教科書	Heartening English Communication II (桐原書店)	副教材等	Heartening English Communication II Advanced Exercises 等						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、仲間と切磋琢磨しながら英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。教科の枠組みを超え、深く探究する。 (2) やさしいレベルのものから順を追って大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。授業・家庭学習を通して自律した学習者を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	1 Laughter without Borders	・未来を表す表現 ・時制の一致	インタビューを読む	○	○	○	28		
5	2 The Ongoing Voyages of Curry	・未来完了形 ・前置詞	説明文を読む	○	○	○			
6	3 The World's Most Bicycle-friendly City	・助動詞+have+過去分詞 ・助動詞に関連する表現	説明文を読む	○	○	○			
第1回 定期考査				○	○		1		
6	4 Can You Feel Emotions in Text?	・さまざまな動名詞 ・動名詞を使った表現	論証文を読む	○	○	○	28		
~	5 Background Music and Sharks	さまざまな不定詞	報告文を読む	○	○	○			
9	6 The Benefits of Play	・SV00の受動態 ・They say [believe] thatなどの受動態	説明文を読む	○	○	○			
第2回 定期考査				○	○		1		
9	7 Nursing in a War Zone	・さまざまな分詞構文	物語文を読む	○	○	○	32		
~	8 Hawaii's Deebate about a Sacred Mountain	・比較に関する表現 ・従属接続詞	意見文を読む	○	○	○			
11	9 The Next Wave in Artificial Intelligence	さまざまな関係詞	説明文と意見文を読む	○	○	○			
第3回 定期考査				○	○		1		
12	Debate project	ディベート 批判的思考力	段階的にディベートの手法を学び、実践する	○	○	○	32		
~	2 10 What If There Were No Moon?	・仮定法を使った表現 ・無生物主語	説明文を読む	○	○				
第4回 定期考査				○	○		1		
3	Reading	物語	物語を味わう	○	○		4		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる						
評価 方法	考査（定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等）	授業中に課された課題・プロジェクト、考査（英作文）、パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み						

令和8年度シラバス【論理表現Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	論理表現Ⅱ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科 理数科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)	副教材等	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (桐原書店) 他					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として仲間と切磋琢磨しながら英語を学び、世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5領域の活動を取り入れ、掘り下げた内容を話したり書いたりする英語での発信力を高めることを目指す。 (2) 基本的な語彙や表現の定着を図り、身近な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	Thinking Logically4~5		文型の拡張・説明語句の 拡張	○	○	○	12	
~	1 How should we lead a healthy lifestyle?	健康・ライフスタイル	説明する・相手の発言を	○	○	○		
6	2 Steps we can take to Zero Hunger	貧困・飢餓	やわらかく否定する	○	○	○		
第1回考査				○	○		1	
6	3 What are good and bad sides of urbanization?	都市化の問題	修飾による説明	○	○	○	12	
~	4 Is your city sustainable enough?	持続可能な都市	発言の意図や感情とともに 情報を伝える	○	○	○		
9	5 Culture or the environment?	環境保護と文化		○	○	○		
第2回考査				○	○		1	
9	6 How to live a plastic-free life?	プラスチックごみ問題	受動態・助動詞・比較・ 仮定法	○	○	○	16	
~	7 Helping others at home and abroad	NGO活動と共生	相手から話を聞きだす・ 言いにくいことを切り出 す	○	○	○		
11	8 Challenges to equality	ジェンダー平等		○	○	○		
第3回考査				○	○		1	
12	9 Produce locally, consume locally	地産地消	強調・倒置・話法など ディベート	○	○	○	16	
~2	10 Sharing as one way to create new value	シェアリングエコノミー		○	○	○		
第4回考査				○	○		1	
3			1年間のまとめ	○	○	○	4	
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／ 書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評 価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）	授業中に課された課題考査（英作文） パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出					

令和8年度シラバス【英語総合】

長野県伊那北高等学校

科目	英語総合	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	CNN Workbook Extended Course (朝日出版社)	副教材等	Oxford Reading Tree(Oxford University Press) 他						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。特に英語ニュースを通して、受信→思考→発信の流れで4技能を身につける。(2) 長文読解に取り組み、大学入試や各種検定試験に対応できる力を身につける。(3) ALTとのTTで、身に付けた英会話力を活かす。								
月	指導目標	学習内容	備考	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	易しいレベルから長文読解に取り組み、英語の構造をつかむ力を養う。 英語のニュースを聴いて英語の音に慣れる。ALTと英語で会話する。 第1回英語検定の対策をする。	CNN News1~5 基本的な英会話 基本的な長文読解 第1回英語検定の対策	学んだ内容に合わせて、ALTとのTTを行う。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	14		
第1回 定期考査				○	○		1		
6 ~ 9	徐々に長文読解のレベルを上げ、内容把握のスピードをあげていく。 自分で選んだトピックについて調べてまとめて発表する。	CNN News6~12 プレゼンテーション 長文読解	学んだ内容に合わせて、ALTとのTTを行う。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第2回 定期考査				○	○		1		
9 ~ 11	長文読解のレベルを上げて、英語を英語のまま理解できる感覚を培う。 第2回英語検定の対策をする。	CNN News13~16 長文読解 第2回英語検定の対策	学んだ内容に合わせて、ALTとのTTを行う。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第3回 定期考査				○	○		1		
12 ~ 2	長文読解のレベルを上げて、英語を英語のまま理解できる感覚を伸ばす。 自分で選んだテーマについて、自分の考えをまとめて発表する。第3回英語検定の対策をする。	CNN News17~20 プレゼンテーション 第3回英語検定の対策	学んだ内容に合わせて、ALTとのTTを行う。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第4回 定期考査				○	○		1		
3		まとめ		○	○		1		
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	英語のリーディング・リスニングをするために必要な語彙、英文法や構文の知識を身につけている。	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている	授業において目標を持ち、主体的に向上心を持って取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる						
評 価 方 法	考査（定期考査、小テスト等）	授業中に課されたプロジェクト、ディベート・パフォーマンステスト・考査	ペアワーク・グループワークの取り組み、プロジェクトへの取り組み						

令和8年度シラバス【学際英語αⅡ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	普通科 理数科	
使用教科書	Heartening English Communication Ⅱ (桐原書店)	副教材等	Heartening English Communication Ⅱ Advanced Exercises 等						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、仲間と切磋琢磨しながら英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。教科の枠組みを超え、深く探究する。 (2) やさしいレベルのものから順を追って大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。授業・家庭学習を通して自律した学習者を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	1 Laughter without Borders	・未来を表す表現 ・時制の一致	インタビューを読む	○	○	○	28		
5	2 The Ongoing Voyages of Curry	・未来完了形 ・前置詞	説明文を読む	○	○	○			
6	3 The World's Most Bicycle-friendly City	・助動詞+have+過去分詞 ・助動詞に関連する表現	説明文を読む	○	○	○			
第1回 定期考査				○	○		1		
6	4 Can You Feel Emotions in Text?	・さまざまな動名詞 ・動名詞を使った表現	論証文を読む	○	○	○	28		
~	5 Background Music and Sharks	さまざまな不定詞	報告文を読む	○	○	○			
9	6 The Benefits of Play	・SV00の受動態 ・They say [believe] that などの受動態	説明文を読む	○	○	○			
第2回 定期考査				○	○		1		
9	7 Nursing in a War Zone	・さまざまな分詞構文	物語文を読む	○	○	○	32		
~	8 Hawaii's Deebate about a Sacred Mountain	・比較に関する表現 ・従属接続詞	意見文を読む	○	○	○			
11	9 The Next Wave in Artificial Intelligence	さまざまな関係詞	説明文と意見文を読む	○	○	○			
第3回 定期考査				○	○		1		
12	Debate project	ディベート 批判的思考力	段階的にディベートの手法を学び、実践する	○	○	○	32		
~	2	10 What If There Were No Moon?	・仮定法を使った表現 ・無生物主語	○	○				
第4回 定期考査				○	○		1		
3	Reading	物語	物語を味わう	○	○		4		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる						
評価 方法	考査（定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等）	授業中に課された課題・プロジェクト、考査（英作文）、パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み						

令和8年度シラバス【学際英語βⅡ】

長野県伊那北高等学校

科目	学際英語βⅡ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科 理数科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)	副教材等	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (桐原書店) 他					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として仲間と切磋琢磨しながら英語を学び、世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5領域の活動を取り入れ、掘り下げた内容を話したり書いたりする英語での発信力を高めることを目指す。 (2) 基本的な語彙や表現の定着を図り、身近な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	Thinking Logically4~5		文型の拡張・説明語句の 拡張	○	○	○	12	
~	1 How should we lead a healthy lifestyle?	健康・ライフスタイル	説明する・相手の発言を	○	○	○		
6	2 Steps we can take to Zero Hunger	貧困・飢餓	やわらかく否定する	○	○	○		
第1回考査				○	○		1	
6	3 What are good and bad sides of urbanization?	都市化の問題	修飾による説明	○	○	○	12	
~	4 Is your city sustainable enough?	持続可能な都市	発言の意図や感情とともに 情報を伝える	○	○	○		
9	5 Culture or the environment?	環境保護と文化		○	○	○		
第2回考査				○	○		1	
9	6 How to live a plastic-free life?	プラスチックごみ問題	受動態・助動詞・比較・ 仮定法	○	○	○	16	
~	7 Helping others at home and abroad	NGO活動と共生	相手から話を聞きだす・ 言いにくいことを切り出 す	○	○	○		
11	8 Challenges to equality	ジェンダー平等		○	○	○		
第3回考査				○	○		1	
12	9 Produce locally, consume locally	地産地消	強調・倒置・話法など ディベート	○	○	○	16	
~2	10 Sharing as one way to create new value	シェアリングエコノミー		○	○	○		
第4回考査				○	○		1	
3			1年間のまとめ	○	○	○	4	
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／ 書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評 価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）	授業中に課された課題考査（英作文） パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出					

4. 地歴公民

令和8年度シラバス【 公共 】

長野県伊那北高等学校

科目	公共	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	公共 (東京書籍)	副教材等	『公共 ワークノート』(東京書籍) 『最新公共資料集 新版』(第一学習社)						
学習の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな思想家の思索に触れながら、学ぶことや働くことの意義を深く問い、他者とともにある人間としてのあり方を考えなおす。 ・現代社会を基礎づける民主主義や資本主義の歴史的変遷を把握したうえで、自らが責任ある市民であり、持続可能な国際社会・地域社会をつくる主体であるという自覚をもつ。 ・統計資料や図表を参考にしながら、現代の国際社会・地域社会にある課題を発見し、それを解決するための納得解を他者とともに探究しようとする姿勢を身につける。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6	1 「公共」 のとびら	<ul style="list-style-type: none"> ○以下に列挙する問いについて思索を深める。 ・「自己形成」とはどのような過程か。 ・「公共」とはこういった空間か。 ・道徳的によい行為とはこういった行為なのか。 ・「国家」とはどのような役割を持っているか。 ・民主主義と立憲主義にはどのような違いがあるか。 ・「人権」とはなにか。 ・日本国憲法の基本理念は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己形成の課題 ・キャリア開発と社会参画 ・個人として尊重しあう人間 ・公共的な空間をつくる人間 ・伝統・文化のなかで生きる人間 ・功利主義と幸福の原理 ・義務論と公正の原理 ・公共的な空間における協働 ・民主主義の原理 ・立憲主義の原理 ・人権保障の原理 ・日本国憲法の理念 			左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13		
第1回考査							1		
6 7 8 9	2-1 民主政治 と私たち 2-2 法の働き と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義は実現できるのか。 ・戦後日本の行政改革は何をめざしているのか。 ・日本の政治を動かしているのは誰か。 ・「法」とはなにか。 ・私たちがかわす「契約」とはどのようなものか。 ・私たち消費者は何を心掛けるべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの民主政治 ・地方自治のしくみと役割 ・国会のしくみと役割 ・内閣のしくみと役割 ・政治参加と選挙 ・政党と利益集団 ・メディアと世論 ・法と社会規範の役割 ・法の成立と適用 ・私法の原則 			左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13		

			<ul style="list-style-type: none"> ・多様な契約 ・消費者の権利と責任 		
第2回考査					1
9 10 11	2-2 法の働き と私たち 2-3 経済社会 で生きる 私たち 2-4 私たちの 職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判所は何をしているのだろうか。 ・「経済活動」とはどのような活動か。 ・企業は何をしているのだろうか。 ・「市場経済」とはどのようなシステムか。 ・「豊かさ」はどのようにはかることができるか。 ・金融機関は何を行なっているのだろうか。 ・日本は「小さな政府」をめざすべきか。「大きな政府」をめざすべきか。 ・働くことは苦しいものなのだろうか。 ・「ブラック」からどのように自分たちを守るべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司法のしくみと役割 ・刑事司法と司法参加の意義 ・私たちと経済 ・現代の企業 ・市場経済のしくみ ・国民所得と経済成長 ・金融のしくみと働き ・中央銀行の役割と金融環境の変化 ・財政の働き ・財政の課題 ・社会保障の考え方 ・社会保障の課題とこれから ・働くということ ・多様な職業選択 ・労働者の権利 ・現代の雇用・労働問題 	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	17
第3回考査					1
12 1 2	2-5 国際社会 のなかで 生きる私 たち	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会にはどのようなルールが必要か。 ・戦後の日本は国際平和に貢献してきたのか。 ・世界から紛争をなくすことはできるか。 ・グローバル化した世界経済にはどのような課題があるか。 ・世界から貧困をなくすことはできるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の成り立ち ・国際連合の役割 ・日本の平和主義と冷戦 ・冷戦後の世界と日本 ・現代の紛争とその影響 ・平和な国際社会に向けて ・貿易のしくみ ・国際金融のしくみと動向 ・グローバル化と今日の国際社会 ・国際経済の諸課題 	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13
第4回考査					1
3		<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な社会」をどうつくりあげていけばよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・倫理、政治・経済にむけて 		4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力が身についている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が身につしており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚が深まっている。
評価方法	定期考査における知識の定着度を問う問題の正答率などを参考に、総合的に判断する。	定期考査における思考力や表現力を問う問題の正答率などを参考に、総合的に判断する。	定期考査の点数、授業におけるグループワークの取り組みなどを参考に、総合的に判断する。

○ 学習のポイント

- ・個別の知識を蓄えるだけでなく、それらを結びつけ、「地球的課題（グローバルイシュー）には、だれが／どのように向きあうべきか」「わたしたちはどのような社会をめざし、それをどのようにつくっていくことができるか」「わたしたちの生活は、何によって成りたっているか、何に支えられているか」「わたし／わたしたちとはなにもものであり、なにもものであるべきか」などの大きく、本質的な問いに対する答えを模索し続けてほしい。
- ・中学校公民科の学習内容と重複する部分が多いので、授業に真摯に参加し、効率よく学習してほしい。
- ・授業の進捗状況に関わらず、教科書・副教材を利用して、自発的に学習してほしい。

令和8年度シラバス【 地理探究 】

長野県伊那北高等学校

科目	地理探究		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	新詳地理探究, 帝国書院 詳解現代地図最新版, 二宮書店		副教材等		新編地誌資料, 白地図ワーク&読図演習, とうほう データブックオブザワールド 2026, 二宮書店					
学習の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し, 各地域の特性や歴史的背景を地誌的に捉え, 地理的な見方・考え方を養う。また, 国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な資質・能力を養う。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学の概念や原理・法則、現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に探究する。 ・地球的な課題を見だし, 系統地理的な考察からその過程や結果を適切に文章や地図・図表に表現する。 ・定期考査を行い, それまでの学習の取り組みや理解度の自己評価を行う。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	農業	農林水産業について自然条件・社会条件に基づき農業地域を理解する。	農牧業, 自給的農牧業, モンスーンアジアの農業, 商業的農牧業, 企業的農牧業, プランテーション農業, 食糧問題, 林業, 水産業, 日本の農林水産業			食料不足など地球的課題について探究的な学習も交える。	1 5			
第1回考査										1
7 8 9	鉱産資源	エネルギー鉱産資源について分布や利用について理解し, 今後起こりうる資源・エネルギー問題を主体的に学ぶ。	エネルギー資源, 電力, 鉱産資源, 資源・エネルギー問題			統計資料から有用な情報を把握して地域や産物の特色や課題を読み取る。	1 5			
第2回考査										1
9 10 11	商業 交通通信 貿易 人口	経済の発展を支える諸活動について理解し, 世界の動向について理解する。	産業構造の変遷, 交通の発達, 日米貿易, 自由貿易・保護貿易, WTO・EPA, 自然増加・社会増加			人口減少問題と多様化するライフスタイルの関係を考察する。	1 5			
第3回考査										1
12 1 2 3	集落 衣食住 言語・宗教 人種・民族	地球上で生活する人々の多様な生活を学ぶ。	村落・都市, 都市問題, 再開発, 衣食住, 言語・宗教, 多言語国家, 人種差別, 民族紛争, 領土問題			人種差別, 宗教迫害の歴史から共存の未来について考える。	1 5			
第4回考査										1
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	自然環境, 産業, 地球的な諸課題など様々な地理的事象について知識・理解を深め, 人間生活との相関について説明できる技能が身についている。		人間生活との関わりを地図や資料を通して多面的, 多角的に考察し, 諸課題を適切にまとめ, 表現できる。			地理的な諸現象を資料を基に考察でき, 関心をもって国際社会を主体的に生きようとする自覚や社会の形成者として必要な能力を身につけようとする態度が身についている。				
評価方法	4回の定期考査などで基礎的・応用的な問題を課し, 知識・技能の定着と発展性を判断す		定期考査時に記述問題や思考力を問う問いを課し, 思考・判断・表現の定着と発展性を評価			グループ学習, 質疑応答, 事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。				

	る。	する。	
--	----	-----	--

○ 学習のポイント

暗記だけでなくなぜその現象が起こるのかを考察する姿勢で科目に臨むこと。地理を学ぶことは俯瞰的な視点かつ多角的に物事をとらえ考察する力が身につくことが大切であり、様々な事柄に興味・関心を持ち、日常生活の中の疑問を大切にしていきたい。教科書・地図帳・資料集・統計資料などを活用することを厭わない姿勢を持ち、問題演習に取り組むこと。

令和8年度シラバス【 世界史探究 】

長野県伊那北高等学校

科目	世界史探究	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	詳説 世界史 (山川出版)	副教材等	グローバルワイド世界史図表 (第一学習社) 新世界史要点ノート [応用編] (啓隆社) など						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地域独自の文化的枠組みの形成と変遷を理解する。 ・現在の世界の課題を見出し、歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版、資料を活用し歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容				備考	時数	
4 5 6	世界史へのまな ぎし 第1章 文明の成立と古 代文明の特質	農耕・牧畜の開始により、大河流域を中心に文明が栄えたことを理解する。 各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質を理解する。	地球環境から見る人類の歴史 日常生活から見る世界の歴史 1 文明の誕生 2 古代オリエント 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明					12	
第1回考査								1	
6 7 8 9	第2章 中央ユーラシア と東アジア世界 第3章 東アジア世界と 東南アジア世界 の展開	紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には遊牧と農耕の2つの世界が並び立ち、唐がこれらを統合した。その過程を理解する。 南アジアの宗教の広がりや東南アジアの社会形成を理解する。	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動揺と変容 4 東アジア文化圏の形成 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開					12	
第2回考査								1	
9 10 11	第4章 西アジアと地中 海周辺の国家形 成 第5章 イスラーム教の 成立とヨーロッ パ世界の形成	西アジアと地中海周辺に現れた諸国家の特徴を理解する。 イスラーム教の成立は、西アジア・ヨーロッパの人々や社会にどのような影響を与えたか理解する。	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシャ人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成					16	

第3回考査				1
12	第6章 1 イスラーム教の 2 伝播と西アジア の動向 第7章 ヨーロッパ世界 の変容と展開	イスラーム教は諸地域 にどのように広がった かを理解する。 中世ヨーロッパの特徴 と、その変遷を理解す る。	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	1 2
第4回考査				1
3	第8章 東アジア世界の 展開とモンゴル 帝国	東アジアの諸国家はど のような性格を持ち、モ ンゴル帝国はどのよう な役割を果たしたか理 解する。	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	4
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		世界の歴史の大きな枠 組みと展開に関わる諸 事象について、地理的条 件や日本の歴史と関連 付けながら理解してい るとともに、諸資料から 世界の歴史に関する 様々な情報を適切かつ 効果的に調べまとめる 技能を身に付けるよう にする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に 関わる事象の意味や意義、特色など を、時期や年代、推移、比較、相互の 関連や現代世界とのつながりなどに 着目して、概念などを活用して多面的 ・多角的に考察したり、歴史に見 られる課題を把握し解決を視野に入 れて構想したりする力や、考察、構 想したことを効果的に説明したり、 それらを基に議論したりする力を養 う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開 に関わる諸事象について、よりよ い社会の実現を視野に課題を主体 的に探究しようとする態度を養う とともに、多面的・多角的な考察や 深い理解を通して涵養される日本 国民としての自覚、我が国の歴史 に対する愛情、他国や他国の文化 を尊重することの大切さについて の自覚などを深める。
評価方法		小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査

○ 学習のポイント

まずは単純な暗記をおろそかにしないこと。そして、その暗記項目を利用して歴史展開を説明できるようにすること。歴史の必然性を捉えながら既知情報から仮説を立てて、新たな歴史展開を想起できるように考えておくこと。常に基本事項の確認を行っておくこと。

令和8年度シラバス【 日本史探求 】

長野県伊那北高等学校

科目	日本史探求	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	詳説 日本史 (山川出版社)	副教材等	新詳日本史(浜島書店) 新日本史要点ノート [応用編] (啓隆社) など						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歩みを探り、周辺の国々や各地域の歴史や諸外国との関係について理解する。 ・現在の日本の課題を見出し、歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版、資料を活用し歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容				備考	時数	
4 5	第1章 日本のあけぼの	日本列島の人類は、旧石器・縄文・弥生の各時代へと移行していく中で、変化する自然環境に適応しつつ、定住生活や農耕生活を繰り広げた。その過程を理解する。	1 文化のあけぼの 2 農協社会の成立					12	
第1回考査								1	
6 7 8 9	第2章 古墳とヤマト政 権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	中央集権国家を目指すヤマト政権と古墳の関係性や、大和政権の対外関係について理解する。 律令国家が形成され、支配を浸透させていく過程を理解する。またこの時期に形成された日本的な政治の在り方や中国との交流の在り方について理解する。 摂関政治や国風文化の成立の背景を理解する。また地方政治の変	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令文化の時代 4 律令国家の変容 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士					12	

		容について理解する。			
第2回考査					1
9 10 11	第5章 院政と武士の躍 進	院政の成立過程について理解する。また武士の台頭のきっかけについて理解する。	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権		1 6
	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立や全国政権に成長する過程を理解する。また武士の勢力拡大が、政治や社会にどのような影響を与えたのか理解する	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化		
	第7章 武家社会の成長	室町幕府の成立や有力守護の勢力拡大について、その背景・要因を理解する。武士の家族制度の変容について理解する。 この時期に一揆や下剋上の発生した要因や背景について理解する	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場		
第3回考査					1
11 12 1 2	第8章 近世の幕開け	織田信長・豊臣秀吉によって全国が統一される過程を理解する。 また日本は、世界やアジアとの活発な交流や、国内政治の変化によって、どのような影響を受け、どのように変化したのか、理解する。	1 織豊政権 2 桃山文化		1 2
	第9章 幕藩体制の成立	幕府が開かれてから260年余り続く江戸時	1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造		

	と展開	代の初期はどのような時代であったのか、政治・社会・外交・経済面などから理解する。 また幕府政治の転換期と安定期について理解する。	3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化		
第4回考査					1
3	今年度の復習				4
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
評価方法		小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査	

○学習のポイント

とにかく教科書を読みこと。これにつきます。教科書ベースの学習を心がけて下さい。

授業は、歴史の流れを重視した展開となります。歴史を大枠で捉え、時代観・歴史観を養えるように進めていきます。各時代の出来事、事件、政策、争い、文化、生活などは「なぜ」起こったのか？という視点で、授業に参加し、教科書を読んでほしい。時代の流れという「幹」＝「土台」を作り、そこにたくさんの「枝」＝「知識」をつけていくイメージを持ってください。共通テストなどの入試では、歴史の流れを掴み、知識を身につけた上で、それらを用いて歴史を推察する力が試されるようになってきています。そのためのグループワーク、論述問題・共通テスト過去問へのチャレンジも授業内で行っていきます。

また過去の先輩たちで、日本史の力を伸ばした人は、とにかく質問をしてください。わからないところや、疑問があれば、社会科研究室に足を運んでください。

5. 理科

令和8年度シラバス【化学基礎】

長野県伊那北高等学校

学習指導計画

科目	化学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科		
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館)	副教材等	エッセンスノート化学基礎(啓林館) スクエア最新図説化学							
学習の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との連携を図りながら、化学的な現象について理解する。 化学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 									
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数			
4 5 6	第1部 物質の構成									
	1 物質の構成	1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体 (実験) 分離と精製	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1			
	2 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置	原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
		2 イオン		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
	3 化学結合	3 元素の周期表	1 イオン結合 2 共有結合 3 金属結合 4 物質の分類と融点	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1			
		1 イオン結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
		2 共有結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
		3 金属結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1		
	第1回考査							1		
6 7 8 9	第2部 物質の変化									
	1 物質質量と 化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量	物質質量と粒子数、質量、気体体積との関係について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
	3 化学反応式と化学変化の量的関係 (実験) 量的関係	3 化学反応式と化学変化の量的関係 (実験) 量的関係	化学反応の量的関係を見いだして理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6			
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6			
							1			
第2回考査							1			
9 10 11	2 酸と塩基	1 酸と塩基 2 水の電離とpH 3 酸・塩基の中和と塩 (実験) 中和滴定	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。 酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4			
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		5			
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		5			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
第3回考査							1			
12 1 2	3 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 (実験) 酸化還元 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の応用 (実験) 電池	酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。 酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4			
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
第4回考査							1			
評 価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。					
評 価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査					

科目	化学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館)	副教材等	リードα化学基礎+化学(数研出版) スクエア最新図説化学 など					
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5	第1部 物質の構成							
	1 物質の構成	1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	○	○		2	
				○	○		2	
				○	○		1	
					○	○	1	
	2 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置 2 イオン 3 元素の周期表	原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	○	○		2	
				○	○		3	
				○	○		1	
	3 化学結合	1 イオン結合 2 共有結合 3 金属結合 4 物質の分類と融点	粒子の結合を電子配置と関連付けて理解する。	○	○		4	
				○	○		3	
			○	○		2		
			○	○		1		
6	第2部 物質の変化							
	1 物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 化学反応式と化学変化の量的関係	物質と粒子数、質量、気体体積との関係について理解する。 化学反応の量的関係を見だして理解する。	○	○		3	
				○	○		6	
				○	○		6	
第1回考査								
7 8 9	2 酸と塩基	(実験) 量的関係 1 酸と塩基 2 水の電離とpH 3 酸・塩基の中和と塩 (実験) 中和滴定	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。 酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解する。		○	○	1	
				○	○		3	
				○	○		4	
				○	○		4	
					○	○	1	
	3 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の応用	酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。 酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。	○	○		3	
				○	○		3	
				○	○		4	
				○	○		2	
第2回考査								
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。					
評 価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査					

科目	化学	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科		
使用教科書	化学（数研出版）	副教材等	リードα化学基礎+化学（数研出版） スクエア最新図説化学 など							
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関した知識を深める。 科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 									
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数			
9	第2編 物質の変化 2章 電池と 電気分解	1 電池 2 電気分解	酸化還元反応及び電池電気分解の基本的な概念や法則が理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
第2回考査										
10	第1編 物質の状態 1章 固体の構造	(実験) 電池と電気分解 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	化学基礎の学習内容をもとに、物質が粒子から構成されていることを確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	11	2章 物質の 状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	物質の三態、およびエネルギーと粒子の間でなりたつ法則を理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5		
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		3章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式 (実験) 分子量の測定 3 混合気体の圧力 4 実在気体	気体粒子の挙動がイメージできるようにし、周囲の状態との間で成り立つ法則を理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1	
4章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液 (実験) コロイド	溶液中の溶質粒子の種類と挙動がイメージできるようにし、溶媒との関係の中で成り立つ法則を理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8				
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
	第2編 物質の変化 1章 化学反応と	1 化学反応と熱		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4			
第3回考査										
12	エネルギー	2 ヘスの法則 3 化学反応と光	化学変化の中で出入りする熱や光をエネルギーの観点から考え、未知の反応の熱量が計算によって求められることを理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
1	3章 化学反応の 速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応の仕組み	化学反応の速さの違いを理解し、その速さを表し方が理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2,3	4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	可逆反応には平衡状態が存在し、その状態は平衡定数で表すことができることを理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8			
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	16			
	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
評価 規 準	化学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の化学変化から問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		化学変化に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。					
評価 方 法	実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査					

科目	理数化学	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	理数科	
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館) 化学 (数研出版)	副教材等		リードα 化学基礎+化学 (数研出版) スクエア最新図説化学 など					
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	第1部 物質の構成	1 物質の構成	1 純物質と混合物	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
			2 物質とその成分		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
	2 物質の構成粒子	3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体		原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1	
	5	3 化学結合	1 原子の構造と電子配置	粒子の結合を電子配置と関連付けて理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
			2 イオン		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3	
			3 元素の周期表		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1	
			1 イオン結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4	
	6	第2部 物質の変化	2 共有結合	物質量と粒子数、質量、気体体積との関係について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3	
			3 金属結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
4 物質の分類と融点			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		1		
1 物質量と 化学反応式			1 原子量・分子量・式量		化学反応の量的関係を見だして理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
2 物質量	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6					
3 化学反応式と化学変化の量的関係	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6					
第1回考査									
7	2 酸と塩基	(実験) 量的関係	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
		1 酸と塩基		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3		
		2 水の電離とpH		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4		
		3 酸・塩基の中和と塩		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4		
	8	3 酸化還元反応	(実験) 中和滴定	酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
			1 酸化と還元		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3	
			2 酸化剤と還元剤		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3	
			3 金属の酸化還元反応		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4	
			4 酸化還元反応の応用		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
			9			酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

	第2編 物質の変化 2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解	酸化還元反応及び電池電気分解の基本的な概念や法則が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2
第2回考査							
	第1編 物質の状態 1章 固体の構造	(実験) 電池と電気分解 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	化学基礎の学習内容をもとに、物質が粒子から構成されていることを確認する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1
10	2章 物質の状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	物質の三態、およびエネルギーと粒子の間でなりたつ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6
	3章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式 (実験) 分子量の測定	気体粒子の挙動がイメージできるようにし、周囲の状態との間で成り立つ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		5
	4章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液 (実験) コロイド	溶液中の溶質粒子の種類と挙動がイメージできるようにし、溶媒との関係の中で成り立つ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
11	第2編 物質の変化 1章 化学反応と	1 化学反応と熱		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		8
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4
第3回考査							
12	エネルギー	2 ヘスの法則 3 化学反応と光	化学変化の中で出入りする熱や光をエネルギーの観点から考え、未知の反応の熱量が計算によって求められることを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4
	3章 化学反応の速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応の仕組み	化学反応の速さの違いを理解し、その速さを表し方が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
1	4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	可逆反応には平衡状態が存在し、その状態は平衡定数で表すことができることを理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		8
2,3				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		16
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
評価 規 準	化学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	既知の化学変化から問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	化学変化に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価 方法	実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査				

科目	地学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	地学基礎 数研出版	副教材等	ベストフィット 地学基礎 実教出版 地学基礎 探究ノート 数研出版						
学習の目標	地学に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との連携を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解する。 科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に着ける。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
	1編 活動する地球	<ul style="list-style-type: none"> 地球の概観 地球の内部構造 プレートテクトニクス 地震 火山 災害とハザードマップ 固体地球まとめ <第1回考査>	地球の構造、活動について身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
	2編 移り変わる地球	<ul style="list-style-type: none"> 地層と化石 地球史 これからの地球環境 地球史まとめ 	地層や地球史について身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
	3編 大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏 水と気象 太陽放射と地球放射 <第2回考査>	大気と海洋の構造、運動について身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
5編 太陽系と宇宙	<ul style="list-style-type: none"> 大気の大循環 海水の循環 日本の天気 地球環境と人間生活 大気と海洋まとめ <第3回考査>	宇宙の姿と時間的な変化について身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2			
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
評価規準									
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査	レポート 定期考査						

科目	物理 理数物理	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科 理数科
使用教科書	物理 (数研出版)	副教材等	フォローアップドリル物理 (数研出版) セミナー物理基礎+物理 (第1学習社出版)					
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	第1編 力と運動	1 運動量と力積 2 運動量保存則 (実験含む)	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
	第3章 運動量の保存			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
5	第4章 円運動と万有引力	3 反発係数 1 等速円運動 (実験含む)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
				2 慣性力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
6		3 単振動 (実験含む) 4 万有引力		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
第1回定期考査								1
7	第2編 熱と気体	1 気体の法則 (実験含む) 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	熱に関する現象を観察、実験などを通して探究し、熱に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
8	第1章 気体のエネルギーと状態変化			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
9				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4	
10	第3編 波の伝わり方	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 3 波の伝わり方	水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
	第1章 波の性質			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	
第2回定期考査								1
11	第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
	第3章 光			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
12		1 光の性質 2 レンズと鏡 (実験含む) 3 光の干渉と回折 (実験含む)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
第3回定期考査								1
1	第4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場 (実験含む) 3 電位	電場・電位などについて観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
	第1章 電場			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	
2		4 物質と電場 5 コンデンサ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3	
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5
第4回定期考査								1
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
評価 規 準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ってたり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査					

令和8年度シラバス【生物】

長野県伊那北高等学校

科目	生物	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 3rd Edition (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探求する力を養う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	第1部 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の進化 有性生殖と遺伝的多様性 進化の仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 進化の仕組みを理解し、マクロな視点から生物を俯瞰することができるようになる。 		○		13		
第1回考査				○	○	○	1		
6 7 8 9	第2部 生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統 生命と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統分類を理解する。 タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、すべての生命現象との関連を見出すことができるようになる。 		○		10		
第2回考査				○	○	○	1		
9 10 11	第3部 遺伝情報の発現と発生	<ul style="list-style-type: none"> 代謝 遺伝現象と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 生物の様々な形質の出発点がDNAの塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。 		○	○	8		
第3回考査				○	○	○	1		
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> 発生と遺伝子の発現 バイオテクノロジー 	<ul style="list-style-type: none"> 発生の過程における分化を、遺伝子発現の調節やたんぱく質の機能と関連付けて理解する。 DNAの塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解する。 			○	8 7		
第4回考査				○	○	○	1		
3	第1部～第3部	・年間のまとめ	・既習範囲を振り返って、知識の定着を確認する。	○			3		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査				

令和8年度シラバス【理数生物】

長野県伊那北高等学校

科目	理数生物	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 3rd Edition (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探求する力を養う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	第1部 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の進化 有性生殖と遺伝的多様性 進化の仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 進化の仕組みを理解し、マクロな視点から生物を俯瞰することができるようになる。 		○		13		
第1回考査				○	○	○	1		
6 7 8 9	第2部 生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統 生命と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統分類を理解する。 タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、すべての生命現象との関連を見出すことができるようになる。 		○		10		
第2回考査				○	○	○	1		
9 10 11	第3部 遺伝情報の発現と発生	<ul style="list-style-type: none"> 代謝 遺伝現象と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 生物の様々な形質の出発点がDNAの塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。 		○	○	8		
第3回考査				○	○	○	1		
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> 発生と遺伝子の発現 バイオテクノロジー 	<ul style="list-style-type: none"> 発生の過程における分化を、遺伝子発現の調節やたんぱく質の機能と関連付けて理解する。 DNAの塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解する。 			○	8 7		
第4回考査				○	○	○	1		
3	第1部～第3部	・年間のまとめ	・既習範囲を振り返って、知識の定着を確認する。		○		3		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。					
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査					

令和8年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	現代高等保健体育（体育理論）	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。 ・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	体づくり 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成 ・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上 ・個人技能の向上と集団における高度な動きの習得 ・課題解決におけるPDCAサイクルの習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・スポーツテスト 			新校工事のため施設使用制限があり、種目を変更する可能性があります。	3		
5	球技Ⅰ		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニスから1種目選択 				7		
6	ダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムのダンス 				4		
7	球技Ⅱ		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニスから1種目選択 				7		
8	体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの学び方 				3		
9	球技Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、テニス、ソフトボール、ソフトバレーから1種目選択 				7		
10	陸上競技		<ul style="list-style-type: none"> ・競走（長距離走） 				6		
11	球技Ⅳ		<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、テニス、ソフトボール、ソフトバレーから1種目選択 				7		
12	球技Ⅴ		<ul style="list-style-type: none"> ・バスケット、バドミントン、卓球から1種目選択 				7		
1	球技Ⅵ		<ul style="list-style-type: none"> ・バスケット、バドミントン、卓球から1種目選択 				7		
2	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの学び方 			3				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き		①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献		①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性				
評価方法	各種目において、ゲームや技能テスト等で評価		練習やゲームでの観察による評価 振り返りフォームによる評価		練習やゲームでの観察による評価				

令和8年度シラバス【保健】

長野県伊那北高等学校

科目	保健		単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	現代高等保健体育		副教材等		なし					
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身に付ける。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、その技能を身に付ける。 ・自他や社会の課題を発見し、課題の解決に向けて思考・判断し、他者に伝える能力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他や社会の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付ける。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考		時数		
4 5 6 7 8 9	生涯を通じる健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康について理解を深めることができるようにする。 ・課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合い、ノートに記述して筋道を立てて説明することができるようにする。 	①生涯の各段階における健康 <ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・妊娠、出産と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康 ②労働と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康 ・働く人の健康の保持増進 			生物と連携 情報と連携		9 9		
第2回考査										1
10 11 12 1 2	健康を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える環境づくりについて理解を深めることができるようにする。 	①環境と健康 ②食品と健康 ③保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ④様々な保健活動や社会的対策 ⑤健康に関する環境づくりと社会参加					3 3 2 2 2		
第4回考査										1
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	①生涯を通じる健康について理解を深めている。 ②健康を支える環境づくりについて理解を深めている。		①自他や社会の課題解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ワークシート等に記述したりして道筋を立てて説明できる			①主体的に取り組む姿勢 ②話し合いへの参加 ③主体的に自ら学び、課題解決のために調べたり、書き出したりしている。				
評価方法	知識については考査で評価 技能に関しては、観察で評価		レポートで評価 授業内で実施するプリントの内容等を評価			授業内での観察による評価 グループワークでの活動内容やプリントへの取り組みを評価				

7. 芸術

令和8年度シラバス【音楽Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	音楽Ⅱ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	高校生の音楽2(教育芸術社)	副教材等	愛唱歌集(長野県高等学校音楽教育研究会)					
学習の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・表現分野(歌唱、器楽、創作)では、個々の段階、希望する進路に応じた題材を学習する。 ・西洋クラシック音楽史、日本の音楽、世界の諸民族の音楽について理解する。 ・楽曲について考えを深め、他者と批評し合う活動を取り入れる。 ・音楽系に進学を考えている生徒が履修している場合は、楽典やソルフェージュなども扱う。 							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5	・日本歌曲 ・イタリア歌曲 ・楽典①	・日本歌曲の特徴、歌唱法 ・イタリア語の発音、歌唱法 ・音価、拍子	・言語による歌唱法の特徴や違いについて考え、歌唱で表現する。 ・楽典の基礎的知識を習得する。	○ ○	○ ○	○ ○	15	
	・西洋音楽史①	・古代〜ルネサンス期の西洋音楽	・様々な音楽が誕生した歴史的背景を知り、原始的な音楽の始まりについて考えることができる。	○	○	○		
6 7	・ドイツリート ・楽典②	・ドイツ語の発音、歌唱法 ・記譜法、調性	・言語による歌唱法の特徴や違いについて考え、歌唱で表現する。 ・読譜力を身につける。	○ ○	○ ○	○ ○	15	
	・西洋音楽史②	・バロック、古典派時代の西洋音楽	・対位法、ソナタ形式などについて理解する。	○	○	○		
8 9 10	・器楽(キーボード、ギター) ・西洋音楽史③	・ソロ、アンサンブルによる演奏 ・ロマン派、近現代の音楽	・楽器の基本的な奏法について学ぶ。 ・ロマン派から現代音楽に至るまでの音楽史について理解する。	○ ○	○ ○	○ ○	15	
	・様々な音楽 ・創作	・日本、世界の諸民族の音楽 ・デジタルと音楽 ・作曲の体験(変奏曲をもとに)	西洋以外の音楽について理解を深める。 ・自分の持つイメージを音にして表現する方法について学ぶ。	○ ○	○ ○	○ ○	15	
1 2	・ソルフェージュ ・個人実技	・聴音 ・新曲視唱 など ・弾き歌い、コードをもとにした伴奏付け、独唱、ピアノ独奏など	・履修者の実情に合わせて課題に取り組む。音楽大学等への進学予定者は入試問題に対応できる力をつける。 ・履修者の実情に合わせて実技課題を設定し、練習に取り組む。	○ ○	○ ○	○ ○	14	
	評価規準	知識・技能 ①楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ②音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している	思考・判断・表現 ①音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図を持っている。 ②音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	主体的に学習に取り組む態度 ①音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしているか。				
評価方法	プリント課題 小テスト 実技テスト	小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み					

7. 芸術

令和7年度シラバス【美術Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	美術Ⅱ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）		副教材等						
学習の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったりすることができるようにする。 ・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育む。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5	・PEN祭ポスター	・伊那北高校の分身としてクライアントに伝えたい内容が明確に伝わるよに、構図、色彩、描画材料の特徴を生かしながら表現する。 ・インパクト、訴求力を強める工夫	・テーマに沿った表現ができる。 ・ポスターの趣旨を理解し、造形要素の働きにより、クライアントにより明瞭で分かりやすく独創的なデザインができる。	○	○	○	15		
6 7	・校章デザイン	・伝えたい内容やイメージを視覚的に表現に記号化し親しまれるデザインを考案する。 ・形や色、また用いる文字の書体等を工夫しSIを表現する。	・統合する2校の歴史や伝統を踏まえながらも新たな校風を生み出すデザインを考案する。 ・誰が見ても印象に残り、100年後も色褪せないものとする。	○	○	○	15		
8 9 10	・クラフトデザイン	・陶芸に親しみ、器にするまでの工程を体験し、その面白さや奥深を感じる。 ・日常で使うことをイメージし、創意工夫し、独創的な形と色を生み出す。	・粘土の持つ特性や素材性を理解し造形を楽しむことができる。 ・成形、素焼き、釉薬掛け、本焼の工程を理解し、器としての機能と美しさを表現する。	○	○	○	15		
11 12	・凹版画	・研修旅先の風景を写真に撮る。 ・凹版画の技法や技術を身に付け、ち密な表現を楽しむ。 ・旅行の情景を版に刻むことで、その感動や思いの定着を図る。	・凹版画の特徴や表現方法を理解し、印刷技術を習得する。 ・ハッチングによる明暗表現など繊細な表現を楽しみ、根気よく制作に取り組むことができる。	○	○	○	15		
1 2	・名画模写	・模写を通じ、その作品の構図や技法の魅力に迫るとともに色使いや筆遣いを真似ることで表現の幅を広げる。 ・作者の生きた場所や時代背景を調べ作者の思いや作品の価値を考察する。	・教科書や画集の作品鑑賞を通じ、美術を愛好する心情を育む。 ・模写を通じ、表現の幅を広げ、技術の向上を図り、その良さを言葉で伝えることができる。	○	○	○	14		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	①対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ②表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 ③基本的な技能を習得し、画材や用具を適切に用い表現できている。		①造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 ②自分から湧き出たアイデアを生かし独創的な表現に繋がられる。		①主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ②常により良い表現を求め行動し、作品の完成度を上げようと試行錯誤を繰り返している。				
評価 方 法	作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど		作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど		作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど				

令和8年度シラバス【 情報Ⅰ 】

長野県伊那北高等学校

科目	情報Ⅰ	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	情報Ⅰ Step Forward! (東京書籍)	副教材等	『ニューステップアップ情報Ⅰ』(東京書籍) 『ライフイズテックレッスン』(Life is Teck!)						
学習の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向け、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する学習活動を通して、情報社会に主体的に参画するために必要不可欠なコンピュータシヨナルシンキング(計算論的思考)の資質・能力を養っていきます。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の情報技術の急激な変化に対応して、情報Ⅰでは「情報モラル」「情報社会」「コミュニケーション」「情報デザイン」「コンピュータ」「プログラミング」「ネットワークの活用」「データサイエンス」「問題解決」といった内容を教科書・問題集・実習・アプリケーションの活用を通して学びます。 ・情報をコミュニケーションに活用する力や、情報の主体的な選択・処理・発信に欠かせない思考力・判断力・表現力を身につけます。 ・情報機器、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用することで、知識や情報活用能力を身に付けることを重視します。 ・以上の学習活動を通して、他教科の学びに応用し卒業後の学びにつなげられることを目標とします。同時に、共通テスト『情報Ⅰ』に対応できる力を身に付けていきます。 								
月	教科書	指導単元	学習内容(番号は教科書の節番号)				備考	時数	
4 5 6	第1章	○情報社会	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション, 実習用PCの使用法等 ・01~02: 情報とメディアの基本的な知識 ・03~05: 問題解決の手法 ・06~09: 情報に関する権利, 法規や制度 ・10~11: 身近な情報技術と社会の変化 				[評価対象] 実習課題 副教材 定期テスト	15	
	第3章	○プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・27~30: コンピュータの仕組み 						
第1回考査							1		
6 7 8 9	第3章	○プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・31~32: アルゴリズム ・33~35: プログラミング(Python言語) ・36~39: モデル化とシミュレーション ・プレゼンテーション① 				[評価対象] 実習課題 副教材 定期テスト	14	
第2回考査							1		
月	教科書	指導単元	学習内容(番号は教科書の節番号)				備考	時数	
9 10 11	第4章	○ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・40~41: 情報通信ネットワークの仕組み ・42~43: インターネットとセキュリティ ・44~46: 情報システム ・47~48: データベースの仕組み ・49~52: データの扱い方と分析の仕方 				[評価対象] 実習課題 副教材 定期テスト	15	
第3回考査							1		
12 1 2	第2章	○情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・12~13: デジタル技術の誕生 ・14~15: デジタルの数値表現の理解 ・16~20: デジタル技術の理解 				[評価対象] 実習課題 副教材	16	

第1章 ～ 第4章	○問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・21～22：ネットコミュニケーション ・23～26：情報デザインの理論と実践 ・プレゼンテーション②③ ・大学入試用プログラミング言語 ・共通テスト「情報Ⅰ」の問題を用いて問題演習を行い、情報の各分野に関する理解を深め、情報処理能力を高める。 ・問題演習 	定期テスト	
第4回考査				1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	定期考査における知識の定着度を問う問題の正答率と実習による課題提出等を参考に、総合的に判断する。	定期考査における思考力や表現力を問う問題の正答率やレポート等の提出物などを参考に、総合的に判断する。	定期考査の点数や提出物、授業における実習への取り組みなどを参考に、総合的に判断する。

○ 学習のポイント

- ・これから社会の一員として参画するため文系・理系関係なく、新しいことを知り、新しいものに関わっていくことができるよう学習に取り組んでください。なお、文系の大学では1年生にデータサイエンスの授業を必修化しているところが多くなってきています。大学での学びにつながるよう、学習してください。
- ・指定された実習課題などの提出物は、すべて提出してください。
- ・授業の進捗状況に関わらず、教科書・副教材等を利用し、自発的に学習してください。さらにこの分野に興味関心のある人は、発展的に学ぶことを推奨します。
- ・国立大学受験では、共通テストにおいて「情報Ⅰ」が必須受験科目として課されています。3年次で情報を学ぶ授業はありませんので、2年次において共通テストの受験レベルまで完成させることを目指します。私立大学共通テスト利用入試でもこの科目を、十分に活用してください。試験に関する情報が公開されていますので、各自注目してください。

令和 8 年度シラバス 【総合的な探究の時間】

長野県伊那北高等学校

科目	総合的な探究の時間	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	なし	副教材等	課題研究メソッド Start Book 改訂版 (啓林館)						
学習の目標	(1) 探究に関わる基本的な資質・能力を身につける。 (2) 地域や社会・もの・ことと自分自身の関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を元に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。 (3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いの良さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようという態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	(1) 興味・関心の深い分野について、SDGs を踏まえた課題を個人で設定する。 (2) フィールドワーク、アンケート、インタビュー等を行うことで課題解決に必要な知識・技能を得る。 (3) 研究結果をまとめ、プレゼンをする。								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 5 6	STEP 1 課題研究に 向けて	SDGs を踏まえた自分の興味・関心のある課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析 SDGs を理解する テーマ設定について 問の立て方 問に対する仮説 情報収集のしかた 			6			
7 8 9	STEP 2 課題研究 I	探究力をつける	<ul style="list-style-type: none"> 批判的思考力 情報収集、分析力 論理的思考力 		中間発表を行う	9			
9 10 11	STEP 3 フィールド ワーク	見学や体験活動を通し、課題への理解を深める 新たな問を立てる	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの意義 インタビュー、アンケート、調査のしかた 		中間発表を行う	15			
12 1 2	STEP 4 課題研究 II・発表会	1年間の成果を発表会で発表する	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンの方法 優れた発表の共有 			10			
3	STEP 5 まとめ	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動の意義の確認 			2			
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		SDGs の 17 の課題を理解しているか。課題の解決に必要な知識・技能を総合的、横断的に身につけているか。	自己と社会が結びついた課題が設定されているか。課題を総合的、論理的に考察できているか。探究の成果をわかりやすくまとめ、発表できているか。		情報の収集や分析、調査・実験などを積極的に行っているか。				
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 探究シートなどを集積した評価。 成果物における評価。 							

令和7年度シラバス【学際探究】

長野県伊那北高等学校

科目	学際探究 (総合的な探究の時間)	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科	
使用教科書	なし	副教材等	課題研究メソッド 2nd Edition (啓林館)							
学習の目標	<p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な情報リテラシーなどの知識や、クリティカルシンキングやロジカルライティングなどの技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから、自らにとってかけがえのない本質的な問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい地域・日本・国際社会を実現しようとする態度を養う。</p>									
具体的な取り組み 指導上の注意点	<p>(1) 複数人からなるグループで一つのプロジェクトを立ち上げ、探究活動を行う。その際に、学校外の人々との関わりをもち、そこから得られた知見を活かすようにする。</p> <p>(2) 個人で本質的な問いを掲げ、探究活動を行う。その際に、常にその問いに対して、「当事者性」や「公共性」、「具体性」などの観点から内省するようにする。</p>									
月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数					
以下はあくまで目安であり、その時折の状況によって変化する。										
4 5 6		プロジェクトを立ち上げ、探究活動を深める。	プロジェクトグループを結成し、探究活動を行う。 プロジェクトに関する講師の講演を聞く。 個人探究の準備をする。	ペン祭で探究活動に関する発表を行う。	6					
7 8 9 10 11 12 1		プロジェクトのまとめをする。 自身にとっての本質的な問いを見だし、個人での探究活動を深める。	プロジェクトの成果と課題を明確にする。 個人探究のもととなる問いを定め、探究のサイクル(課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する)をまわす。	課題研究発表会で探究活動に関する発表を行う。	9					
2 3	まとめ	探究活動を振りかえり、まとめをする。	1年間のまとめをする。		15					
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
		探究活動に必要な知識や技能が身についているか。	問いを見だし、探究のサイクルをまわすことができるか。	探究活動に主体的・協働的に取り組んでいるか。						
評価方法		各時間の取り組み状況や発表内容に鑑みて、総合的に判断する。								